

沼津市文化財調査報告書 第101集

# 拓南遺跡発掘調査報告書

2011

沼津市教育委員会



## 例 言

1. 本書は静岡県沼津市足高 496-1 他に所在する<sup>たくなん</sup>拓南遺跡の発掘調査報告書である。
2. 拓南遺跡の現地発掘調査は、新日本設計株式会社が建設する駐車場の工事に先立ち、平成 21 年 4 月 20 日から平成 21 年 7 月 31 日まで実施した。
3. 整理事業は、平成 22 年度埋蔵文化財発掘調査受託事業として新日本設計株式会社から沼津市が委託を受け、沼津市教育委員会が担当した。
4. 発掘調査の関係者は以下の通りである。

事業委託者	新日本設計株式会社	代表取締役	野田泰秀
事業受託者	沼津市	市 長	栗原裕康
事業主体者	沼津市教育委員会	教 育 長	工藤達朗
事業担当者	沼津市教育委員会	文化財振興課	
		課 長	上原正之 (H21) 宮下義雄
		課長補佐	後藤 豊 (H21) 山口正文
調査担当者		文化財調査係	
		係 長	高尾好之 (H21)
		指 導 主 事	片桐誠一郎 (H21)
		主 事	原田雄紀 (H21)
整理担当者		係 長	山本恵一
		指 導 主 事	前嶋秀張
5. 整理作業の実務は前嶋が担当し、沼津市文化財センターにて行った。事務処理は、事務補助員土屋周子が担当した。
6. 報告書の作成・執筆は前嶋が担当した。遺構図版・遺物図版・写真図版の作成は、整理補助員西川久美子・高林千明の補助を得た。
7. 遺物観察表の X 座標・Y 座標は、調査範囲内における任意座標で、Z 座標は標高であり、遺物の出土地点を示している。接合資料については基本的に遺物番号の小さいものの座標を示しているが、出土状況などから接合資料内の主体的な遺物の座標値を採用したものがある。
8. 報告書の刊行にあたっては、鈴木裕篤・高尾好之・山本恵一・池谷信之・小崎 晋・原田雄紀の各氏に助言と協力を得ている。
9. 本書に係わる発掘調査の記録および出土遺物は、沼津市教育委員会事務局文化振興課文化財調査係（沼津市文化財センター 〒410-0873 沼津市大諏訪 46-1 TEL 055-952-0844）で保管している。



# 目次

## 例言

## 凡例

第Ⅰ章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法と経過	1
第3節 整理事業の経過	2
第Ⅱ章 遺跡の環境	4
第1節 位置と地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3節 遺跡の層位	9
第Ⅲ章 調査の結果	12
第1節 旧石器時代の遺構と遺物	12
第2節 縄文時代の遺構と遺物	19
第Ⅳ章 蛍光 X 線分析法による拓南遺跡出土黒曜石の原産地推定	28
第Ⅴ章 調査の成果	31
遺物観察表	
写真図版	
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図	3
第2図 周辺遺跡分布図	5
第3図 拓南遺跡周辺図	7
第4図 グリッド配置図	10
第5図 土層断面図	11
第6図 休場層石器分布図	13
第7図 第1号・第2号ブロック実測図	14
第8図 休場層出土石器実測図(1)	15
第9図 休場層出土石器実測図(2)	17
第10図 休場層出土石器実測図(3)	18
第11図 縄文時代全体図	19
第12図 縄文土器分布図	20
第13図 縄文石器分布図	21
第14図 SX1・SX2・SX3 実測図	22
第15図 縄文土器拓影図(1)	23
第16図 縄文土器拓影図(2)	24
第17図 縄文石器実測図(1)	24
第18図 縄文石器実測図(2)	26
第19図 縄文石器実測図(3)	27
第20図 黒曜石原産地判別図(1)	29
第21図 黒曜石原産地判別図(2)	29

## 挿表目次

第1表	黒曜石原産地推定結果	30
第2表	旧石器時代休場層石器一覧表	33
第3表	旧石器時代休場層礫一覧表	33
第4表	縄文時代土器一覧表(1)	33
第5表	縄文時代土器一覧表(2)	34
第6表	縄文時代石器一覧表(1)	34
第7表	縄文時代石器一覧表(2)	34
第8表	縄文時代礫一覧表(1)	34
第9表	縄文時代礫一覧表(2)	35
第10表	縄文時代礫一覧表(3)	35
第11表	縄文時代礫一覧表(4)	36
第12表	縄文時代礫一覧表(5)	36

## 写真図版目次

P L. 1	愛鷹山麓(南より)	愛鷹山南東麓(南より)
P L. 2	拓南遺跡(西より)	拓南遺跡(東より)
P L. 3	愛鷹ローム標準土層	
P L. 4	休場層第1号・第2号ブロック(東より)	休場層第1号ブロック(南より)
P L. 5	新期SC層～FB層遺構検出状況(東より)	SX1 検出状況(南より)
P L. 6	SX1 半截状況(南より)	SX1 完掘状況(南より)
P L. 7	SX2 完掘状況(西より)	SX3 検出状況(東より)
P L. 8	SX3 半截状況(東より)	SX3 完掘状況(東より)
P L. 9	SX1・SX2・SX3 完掘状況(南より)	新期SC層～FB層遺物出土状況(東より)
P L. 10	新期SC層～FB層遺物出土状況(北より)	新期SC層～FB層遺物出土状況(南より)
P L. 11	新期SC層～FB層遺物出土状況(東より)	新期SC層～FB層遺物出土状況(東より)
P L. 12	休場層出土石器(ナイフ・RF・石核)	休場層出土石器(石核)
P L. 13	休場層出土石器(接合資料)	第1群a類土器・b類土器
P L. 14	第2群a類土器・b類土器	第2群b類土器
P L. 15	縄文時代遺構外出土石器(RF・UF)	縄文時代遺構外出土石器(磨石・礫斧)
P L. 16	縄文時代遺構外出土石器(石皿)	

## 第 I 章 調査の経過

### 第 1 節 調査に至る経緯

拓南遺跡は平成 19 年 11 月 28 日付けで提出された埋蔵文化財分布調査指導申請書に基づき、駐車場造成工事に伴って平成 20 年 1 月 21 日から同年 2 月 8 日に実施した分布調査により確認された遺跡である。沼津市教育委員会が実施した分布調査の結果、駐車場予定地内に旧石器時代から縄文時代に至る埋蔵文化財が存在することが判明し、事業者である新日本設計株式会社に通知した。また、遺跡の名称については静岡県埋蔵文化財保護事務に関する規則に基づいて静岡県教育委員会と協議し、平成 21 年 6 月 4 日付けで沼津市足高尾上（拓南）に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地名拓南遺跡（周知面積約 11,000㎡）として新規登録した（第 2 図・第 3 図）。

同社からは、平成 20 年 7 月 30 日付けで埋蔵文化財の発掘調査についての実施依頼申請が提出され、平成 21 年 3 月 23 日付けで埋蔵文化財発掘調査に関わる協定書を締結した。その後、平成 21 年 4 月 10 日付けで埋蔵文化財発掘の届出書が提出され、平成 21 年 4 月 20 日付けで埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結した。なお、発掘調査報告書作成のための整理事業については、平成 22 年 6 月 1 日付けで埋蔵文化財発掘調査（整理事業）の委託契約を締結し、平成 22 年度受託事業として実施した。

### 第 2 節 発掘調査の方法と経過

現地発掘調査は平成 21 年 4 月 20 日から平成 21 年 7 月 31 日まで実施した。

調査の方法は、沼津市が導入している遺構・遺物データベースである遺跡管理システムに基づく調査を行うため、調査対象地を網羅するように南西角を原点（000 - 000）とし、東方向に X 軸、北方向に Y 軸となる 10 m 方眼の座標を設定し、X Y 交点に測量の基準となる方眼杭を設置した。北方向は真北である。つまり原点から東へ 90 m、北へ 80 m 地点の方眼杭は 009 - 008（9 - 8）と表示されることとなる。また、10 m 方眼によって区画された大グリッドの名称は、当該グリッドの南西角に位置する交点の名称を使用している。（第 4 図）

現地調査は、以下の経過で実施した。

4 月 20 日～5 月 1 日 発掘調査の打合せ。周辺の安全を確認する。調査機材を搬入し、重機により第 1 層表土から第 2 層新期スコリア層上面まで除去する。

5 月 7 日・5 月 8 日 ユニットハウス・仮設トイレを搬入し、調査区南西側に設置する。

5 月 11 日～5 月 15 日 調査区を精査して遺構検出を行った後、新期スコリア層（遺物包含層）の人力掘削を開始する。また、調査区内に試掘坑を設定して休場層まで人力掘削し、土層堆積状況と遺物包含層の把握に努める。排土置き場にしがらを設置して養生する。

5 月 18 日～5 月 22 日 新期スコリア層を掘削中に SX1～SX3 を検出した。平面プランを確認して検出状況の写真を撮影する。遺構の存在を想定して面的に新期スコリア層（遺物包含層）を精査する。出土遺物は個別の状況写真を撮影し、位置を記録して取り上げる。

5 月 25 日～5 月 29 日 新期スコリア層を精査したが、新たな遺構は確認できなかった。そこで、SX1～SX3 を半截して遺構の断面や土層の堆積状況を調査し、同層での遺構検出作業を終了した。

次に、第3層栗色土層から第5層休場層までの包含層調査に移行した。まず、包含層の概要を把握するために調査区北側に試掘坑を設定し、第3層栗色土層から第5層休場層まで人力掘削を行った。その結果、栗色土層から第4層富士黒土層にかけて遺物が分布していることが判明した。そこで、栗色土層（遺物包含層）から人力掘削を開始し、富士黒土層まで順次掘り下げていくことにした。

6月1日～6月5日 栗色土層に続き、富士黒土層（遺物包含層）の人力掘削を開始する。検出した遺構の写真撮影を行うとともに出土遺物と土層の実測を行う。検出した遺構を調査する。

6月8日～6月12日 富士黒土層の人力掘削を継続する。遺物出土状況・遺構検出状況の写真撮影と出土遺物の実測と取り上げを行う。

6月15日～6月19日 富士黒土層の人力掘削を終了し、空中写真撮影を実施する。その後、試掘坑を第0黒色帯まで人力掘削する。排土置場の養生を撤去する。器材搬出、ユニットハウス・仮設トイレ・埋め戻し作業を行う。現地発掘調査を終了する。

### 第3節 整理事業の経過

整理事業は平成22年度埋蔵文化財発掘調査受託事業として、平成22年6月1日付で事業者である新日本設計株式会社（代表取締役 野田泰秀）と沼津市（沼津市長 栗原裕康）において拓南遺跡埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、実施した。

出土遺物は、文化財センターで洗浄・注記作業を実施し、出土地点・種類別に仮収納した。次に、分類・接合・復元を行いながら主要遺物を抽出し、実測図を作成した。トレースはIllustrator®を利用したデジタルトレースを行った。これらの図面は、InDesign®を用いて遺構や包含層別に編集した。さらに、接合・復元した遺物について写真撮影を行い、現地調査時の記録写真とあわせて写真図版を作成した。

なお、旧石器時代と縄文時代の黒曜石製石器類については、石材の原産地を特定するために、沼津市が平成17年度に導入した島津製作所製エネルギー分散型蛍光X線分析装置（EDX-900HS）を用いて分析し、その結果を第4章に記載した。この他、石器の一部は実測図作成作業の迅速化を図るため、三次元レーザースキャニング画像に基づいたデジタル実測方法を選定し、物体表面の構造線の自動抽出システムを特許登録する株式会社ラングに石器実測業務委託として発注した。

検出遺構については、現地調査時に記録された測量データをもとに、遺跡管理システム上で編集作業を行った。これに、整理事業で得られた遺物のデータを追加して遺構図版を作成した。この図面は高精細のプリンターで出力し、印刷用版下図面として使用した。

以上の作業と並行して、調査日誌等の記録を基本資料として報告書原稿の執筆を行った。報告書の印刷は、市担当課である総務課に物品調達依頼書兼契約締結伺書を提出して見積もり合わせを実施し、最低見積もり業者に原稿を入校した。校正は2校まで行い、3月10日に納品した。3月30日に報告書及び実績報告書を提出し、全事業を完了した。なお、事業経費944,420円のうち840,000円は委託者である新日本設計株式会社が委託料として負担した。



第1図 遺跡位置図 (1/100,000)

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 位置と地理的環境

発掘調査の対象となった拓南遺跡は、東名高速道路沼津インターチェンジの北北西に約2 Km、標高約212 mの沼津市足高字尾上496-1他にあり、愛鷹山から南東方向に延びる丘陵に立地する。この丘陵の西側には松沢川、東側には芹沢川が流れ、比高差のある谷を作り出している（第3図）。

拓南遺跡のある愛鷹火山は、箱根火山とほぼ同時期に活動した火山である。旧期の活動は約40万年前に凝灰角礫岩を生成して始まり、安山岩溶岩を噴出しながら成層火山へと成長した。その後、約25万年前まで火山灰を噴出しているが、約17万年前の中期の活動で山体の一部が崩落し、裾野部に扇状地を形成している。新期の活動では、南東部に開口する馬蹄形カルデラから溶岩が流下し、南東部に扇状の丘陵を形成した。そして、約10万年前には袴越岳溶岩と小規模な火砕流を噴出して活動を休止したとされる（由井1989）。

愛鷹山麓には、約8万年前に始まる古富士火山の噴火活動により20mを超えるローム層が堆積しており、火山灰層序学的区分に基づいて堆積順に下部ローム層・中部ローム層・上部ローム層に区分されている（愛鷹ローム団研グループ1969）。この内、後期旧石器時代の遺物が発見されるのは古富士火山後半の活動によって堆積した上部ローム層であり、激しい噴火で短時間に堆積したスコリア層と、土壌化の進んだ腐植質土壌とされている黒色帯が互層となっている。年代的には約3万数千年前を上限とし、南関東地域の立川ロームに対応するものと考えられている。

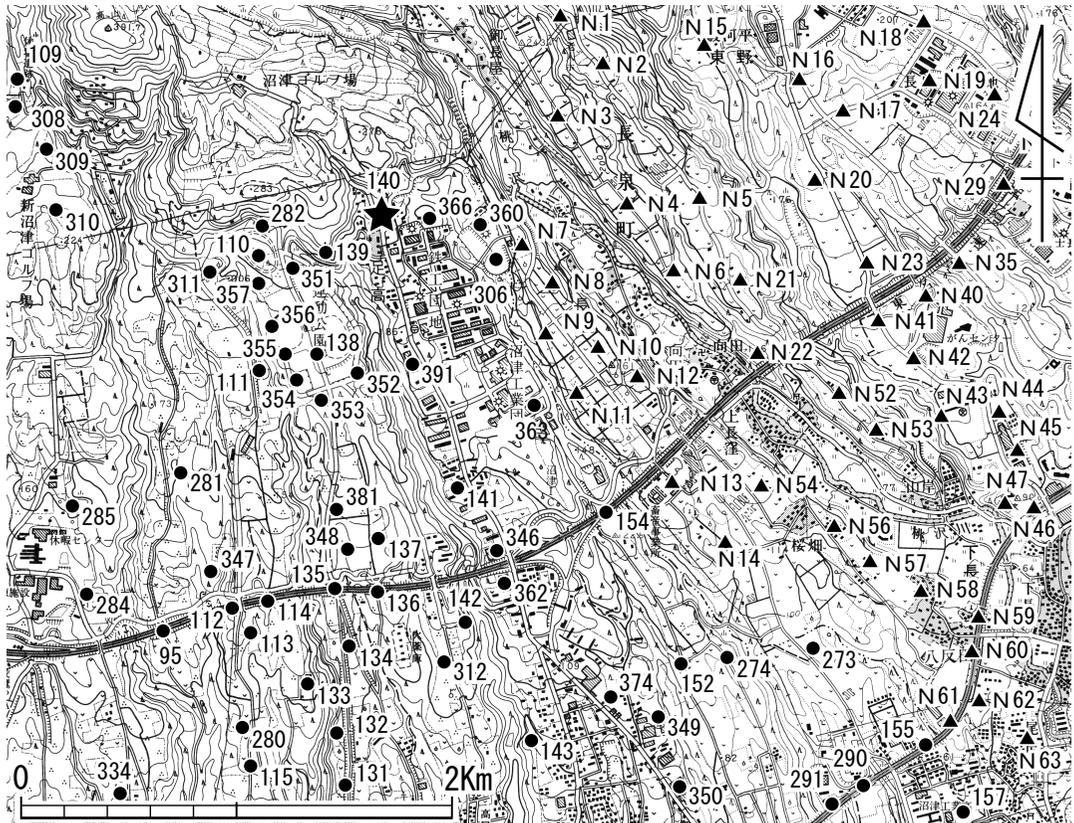
### 第2節 歴史的環境

愛鷹山麓は昭和初期に江藤千萬樹・長田実らにより清水柳遺跡、木戸上遺跡、柏窪遺跡などが考古学界に紹介され、注目されてきた地域である。昭和30年代に入ると東海道新幹線、東名高速道路、農地構造改善、土地区画整理等に伴う発掘調査が行われ、旧石器時代から歴史時代に至る遺跡が分布していることが明らかになってきた。さらに、第二東海自動車道建設に伴う発掘調査では、富士市域から裾野市域に至る広範囲に連綿と遺跡が営まれていたことが明らかとなった。

【旧石器時代】旧石器時代の石器群は、約3万2千年前の第Ⅶ黒色帯から約1万4千年前の休場層まで約12枚の土層から石器群が出土し、「東海地方の地域編年」（高尾2006）等により5期に区分されている。なお、近年は第1期に先行する石器群として、富士川系ホルンフェルス製の石核あるいは礫器に和田峠産黒曜石剥片や柏峠産黒曜石を用いた縦長剥片素材の石器類が報告されている。出土層位は上部ローム最下層の第Ⅳスコリア層から第Ⅶ黒色帯である。主な遺跡として元野遺跡、秋葉林遺跡、的場遺跡がある。

第1期は台形様石器を主体として局部磨製石斧を組成する石器群である。出土層位は第Ⅶ黒色帯から第Ⅳ黒色帯である。環状ブロックを検出した土手上遺跡（d・e区-2）第Ⅴ黒色帯が代表的な遺跡である。

第2期は二側縁加工のナイフ形石器が出現して発展する石器群である。出土層位は第Ⅲスコリア帯黒色帯2から第Ⅱ黒色帯である。出現期の遺跡として葛原沢第Ⅳ遺跡第Ⅲスコリア帯黒色帯2があり、発展期の遺跡として中見代第Ⅰ遺跡第Ⅲ黒色帯等がある。第Ⅲ黒色帯では、刈ヶ沢遺跡と鎌



- |              |             |              |          |
|--------------|-------------|--------------|----------|
| <b>【沼津市】</b> |             | <b>【長泉町】</b> |          |
| 95 八兵衛屋敷     | 280 築地鼻北    | N1 東細尾上      | N24 八分平D |
| 109 休場       | 281 八兵衛洞    | N2 東細尾       | N25 梅ノ木平 |
| 110 葛原沢      | 282 葛原沢第Ⅱ   | N3 西細尾A      | N29 大峰A  |
| 111 西洞       | 285 西大曲第Ⅱ   | N4 西細尾B      | N35 間渡   |
| 112 尾上Ⅲ橋     | 290 子ノ神     | N5 東細尾A      | N41 中見代  |
| 113 大曲       | 306 尾上イラウネ  | N6 向田A       | N42 木戸   |
| 114 尾上Ⅱ橋     | 308 休場南     | N7 尾上イラウネ    | N43 茶木畑  |
| 115 築地鼻北     | 309 休場下     | N8 尾上イラウネB   | N44 上野E  |
| 131 東大平      | 310 三角      | N9 中尾        | N45 上野A  |
| 132 木戸上      | 311 葛原沢第Ⅲ   | N10 イラウネ     | N46 長久保城 |
| 133 桜公園      | 312 拵土手     | N11 野台       | N47 上野B  |
| 134 神馬土手     | 334 洞林      | N12 ハサマ      | N52 山岸上B |
| 135 北神馬土手    | 346 土手頭     | N13 中峯       | N53 山岸A  |
| 136 二本松      | 351 土手上     | N14 柏窪B      | N54 桜畑上  |
| 137 植出       | 352 ニッ洞     | N15 八分平      | N56 桜畑下  |
| 138 尾上広合     | 353 広合南     | N16 八分平観音    | N57 八反田後 |
| 139 拓南西      | 354 中見代第Ⅰ   | N17 富士石      | N58 八反田  |
| 140 拓南       | 355 中見代第Ⅱ   | N18 東野       | N59 西願時  |
| 141 尾上第Ⅰ     | 356 中見代第Ⅲ   | N19 八分平B     | N60 平畦   |
| 142 尾上馬牧土手   | 357 葛原沢第Ⅳ   | N20 追平A      | N61 陣馬上B |
| 143 上松沢平     | 360 尾上イラウネ北 | N21 東細尾B     | N62 陣馬上A |
| 152 丸尾       | 362 土手頭南    | N22 向田B      | N63 池田   |
| 154 清水柳      | 363 清水柳北    | N23 追平B      |          |
| 155 柏葉尾      | 366 拓南東     |              |          |
| 273 柏窪       | 374 虎杖原1号墳  |              |          |
| 274 丸尾第Ⅲ     | 381 植出北     |              |          |
|              | 391 尾上第Ⅱ    |              |          |

『沼津市埋蔵文化財分布地図』『静岡県文化財地図Ⅰ－静岡市以東－』より作成

第2図 周辺遺跡分布図 (1:35,000)

沢遺跡で大形の土坑群が検出されている。

第3期は尖頭状石器・角錐状石器・円形搔器を組成する石器群である。出土層位はニセローム層直上から第0黒色帯である。代表的な遺跡として子ノ神遺跡第0黒色帯などがある。重要な遺構は清水柳北遺跡で石囲炉を検出している。第1黒色帯を中心に礫群が発達する時期である。

第4期は尖頭器が出現し、二側縁加工のナイフ形石器の組成変化に特徴がある石器群である。出土層位は休場層である。代表的な遺跡として広合遺跡の他、国府系ナイフ形石器を出土した二ッ洞遺跡がある。

第5期の遺跡は細石器を主体とする石器群である。出土層位は休場層の上層を中心としている。国指定史跡休場遺跡が有名である。

#### 【縄文時代】

草創期は清水柳北遺跡から絡条体圧痕文等の土器と石槍・有舌尖頭器・石鏃等の狩猟具、動物の解体に関わる搔器・削器、加工具の礫器が出土している。竪穴住居跡は葛原沢第IV遺跡で調査され、草創期後半の重要な遺構である。また、埋没谷の調査では、絡条体圧痕文を有する独自の土器が出土した。

早期は押型文土器の竪穴住居跡が中見代第Ⅲ遺跡で1棟、尾上イラウネ遺跡で8棟、清水柳北遺跡第1次調査で2棟、大谷津遺跡で1棟検出されている。これに続く鶴ヶ島台式～茅山上層式の竪穴住居跡は、尾上イラウネ遺跡で6棟、清水柳北遺跡で16棟検出された。この他、元野遺跡ではクリの貯蔵穴が発見された。類似する土坑は尾上イラウネ遺跡や清水柳北遺跡で数多く検出されている。

早期の集落は前期初頭まで継続するものが多い。清水柳北遺跡では木島式の竪穴住居跡が39棟、平沼吹上遺跡では7棟検出されている。これ以降の遺跡は減少するが、諸磯b式期には一時的に土器と石器が残る包含層遺跡が増加する。

中期初頭の五領ヶ台式以降に遺跡数は増加する。竪穴住居跡は井戸尻式期が広合遺跡で3棟、二ッ洞遺跡で2棟検出される。これに続く、加曾利E式期の柄鏡形敷石住居跡は、大谷津遺跡で検出されている。

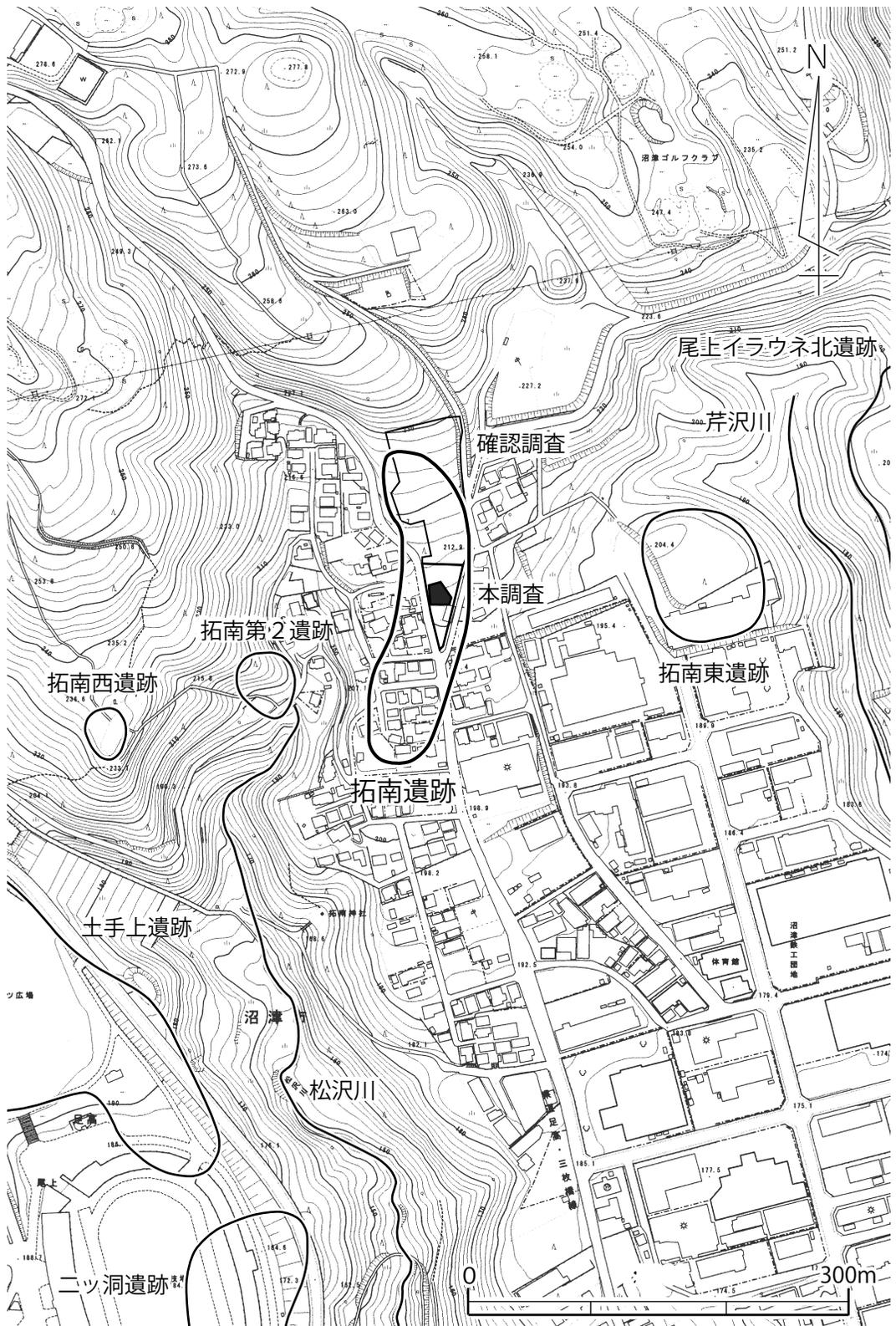
後期以降縄文時代の集落は激減する。後期前葉までの遺跡が多く、晩期の土器は少ない。

#### 【弥生時代】

前期は葱川遺跡で榎王式土器が出土しており、伊勢湾地方から搬入した条痕文土器とされる。

中期の中葉から後続する時期では、二ッ洞遺跡で鴨ヶ池式の壺型土器が出土している。

後期は、標高100m～200mの地点に高地性集落が分布している。竪穴住居跡が集中する植出遺跡、環壕で区画された尾上Ⅱ橋遺跡、方形周溝墓が群をなす二本松遺跡などがある。後期後葉～古墳時代初頭にかけては、墳丘墓が出現する。中見代第Ⅰ遺跡では大小の墳丘墓、尾上Ⅲ橋西遺跡からは4基の墳丘墓が検出された。第1号墓は中央の主体部が二重の掘り方を持ち、土製勾玉が出土している。植出遺跡では3基の方形周溝墓が検出され、ガラス勾玉とガラス小玉が出土した。



第3図 拓南遺跡周辺図 (1:5,000)

## 【古墳・奈良時代】

最初に築かれる古墳は前方後方墳の辻畑古墳である。全長約 62 m、後方部幅約 35 m、前方部幅約 24 m、墳丘盛土高約 4 m の規模である。主体部は木棺直葬で銅鏡 1～2 面、槍 1 点、鉄鏃 10 点以上、ヤリ鉋 1 点等が出土した。土師器の特徴から古墳時代前期初頭の 3 世紀代の古墳の可能性が高いとされる。

後期前半の前方後円墳は、円筒埴輪列を有する長塚古墳・子ノ神古墳の二基が築かれている。後半になると石川古墳群、井出古墳群などの群集墳が分布する。ここからは、装飾付太刀が出土しており、被葬者と支配者層の関係を示す貴重な資料となっている。

清水柳北遺跡では 8 世紀初頭の上円下方墳が検出されている。方形の基壇の上に築かれた円丘の中央には火葬骨を納めた 1 m あまりの大形石櫃が安置されていたとされる。

前期の集落は、八兵衛屋敷遺跡、八兵衛洞遺跡、築地鼻北遺跡、大廓遺跡が知られる。これらの集落は弥生時代後期後半から古墳時代前期に継続するものが多く、在地性の強い土器が用いられる。

中期の集落は尾崎遺跡で 7 軒検出している。平面プランは方形あるいは長方形で土師器の壺・甕・高杯・鉢などが出土している。これらの集落は一般的なもので、前方後方墳や前方後円墳などの被葬者を推定しうる首長居館は確認されていない。

## 【奈良・平安時代】

平安時代の遺構として経筒がある。千鳥道経塚は銅鑄製経筒の蓋に仁安 3 年（1168）の紀年銘と大檀主・平助宗や勸進僧・覚菌、大工・藤原国行等の人名が陽刻される。経筒外容器として尾張の猿投窯や常滑窯産の陶器を使用し、中国製の白磁合子が出土している。

三明寺経塚は銅板製経筒に建久 7 年（1196）の紀年銘の他、藤原貞宗、源守包、伴宗長、紀家重の施主名や女施主として藤原、橘、源の氏名が陰刻されており、墨書されている僧忠円によって勸進され、賛同した人々が夫婦で写経し奉納したとみられる経塚である。

## 【中世】

中世おける沼津は、駿河・伊豆・相模及び甲斐の国境に位置することから、政治的・軍事的に重要な地域であった。特に戦国期には北条・武田・今川といった戦国大名が割拠して軍事的な拠点が構築されている。中でも愛鷹山麓の裾部を通る根方街道には、興国寺城や東熊堂砦などの城が構築され、街道の要所に在地土豪が屋敷を構えていたとされる。特に興国寺城跡では発掘調査により伝天守台跡、伝船着き場跡、本丸・二の丸間の堀や土橋、本丸虎口が明らかとなり、二の丸ではそれらに先行する三日月堀も確認されている。遺構は東西方向の堀・南北方向の溝とピットで区画された城館跡とされ、16 世紀前半の片口や播鉢等が出土している。

### 第3節 遺跡の層位

分布調査では、試掘坑を約2mの深さに掘削して、第5層休場層を確認した。ただし、TP3は第1層表土から第7層第Iスコリア層まで削平を受けていたので、第8層第I黒色帯から第12層第III黒色帯まで調査した。なお、駐車場造成工事に先立つ本調査では、工事掘削が及ぶ範囲を休場層まで調査した（第4図、第5図）。

以下、分布調査及び本調査で観察した第1層～第13層の特徴について概略を述べる。

第1層 表土 現在の耕作土である。層厚は20cm前後である。

第2層 新期スコリア層（新SC） 10YR3/3 暗褐色を呈する。スコリアやパミスを10%含む。本層に含まれるカワゴ平パミスはBP2,830 ± 120とBP3,250 ± 70とされる。層厚は10cmから30cmである。

第3層 栗色土層（KU） 7.5YR3/2 黒褐色を呈する。スコリアやパミスを2%含む。黄褐色のローム層に類似するが、休場ローム層より明度が暗い。粒子も粗く、粘性に乏しい。縄文時代前期から中期の包含層である。層厚は20cmから80cmである。

第4層 富士黒土層（FB） 7.5YR2/1 黒色を呈する。スコリアやパミスを1%含む。縄文時代早期の包含層である。層厚は20cmから50cmである。

漸移層（ZN） 7.5YR3/2 黒褐色を呈する。層厚は5cm前後である。富士黒土層は漸移層を挟んで休場層に移行する。

第5層 休場層（YL） 10YR3/4 暗褐色を呈する。層厚は20cmから50cmである。休場層は細分が試みられているが、本遺跡では分層できなかった。

第6層 第0黒色帯（BBO） 「休場層下部黒色帯（YLLB）」と呼ばれていたが「BBO」という名称に変更している。黒褐色を呈する。赤褐色・燈色のスコリアを比較的多く含む。

第7層 第Iスコリア層（SC I） 燈色のスコリア層である。層厚は15cmである。ドライカレー状の堅いスコリアで、粒径の異なるスコリアが重なっている。

第8層 第I黒色帯（BB I） 層厚は30cmである。下半部では比較的黒味が強くスコリアが少ないのに対して、上半部では風化の進んだ細かいスコリアが多く含まれる。

第9層 ニセローム層（NL） 15cmから20cmの層厚をもつ。色調は黄褐色を呈し、離れるとローム層のように見えるが、スコリアと火山ガラスからなる層である。この層中には始良・丹沢パミス（AT）が含まれる。ニセローム層上半部は径数mm以下の比較的細かい風化の進んだスコリアが主体をなし、下半は火山ガラスが主体となる。

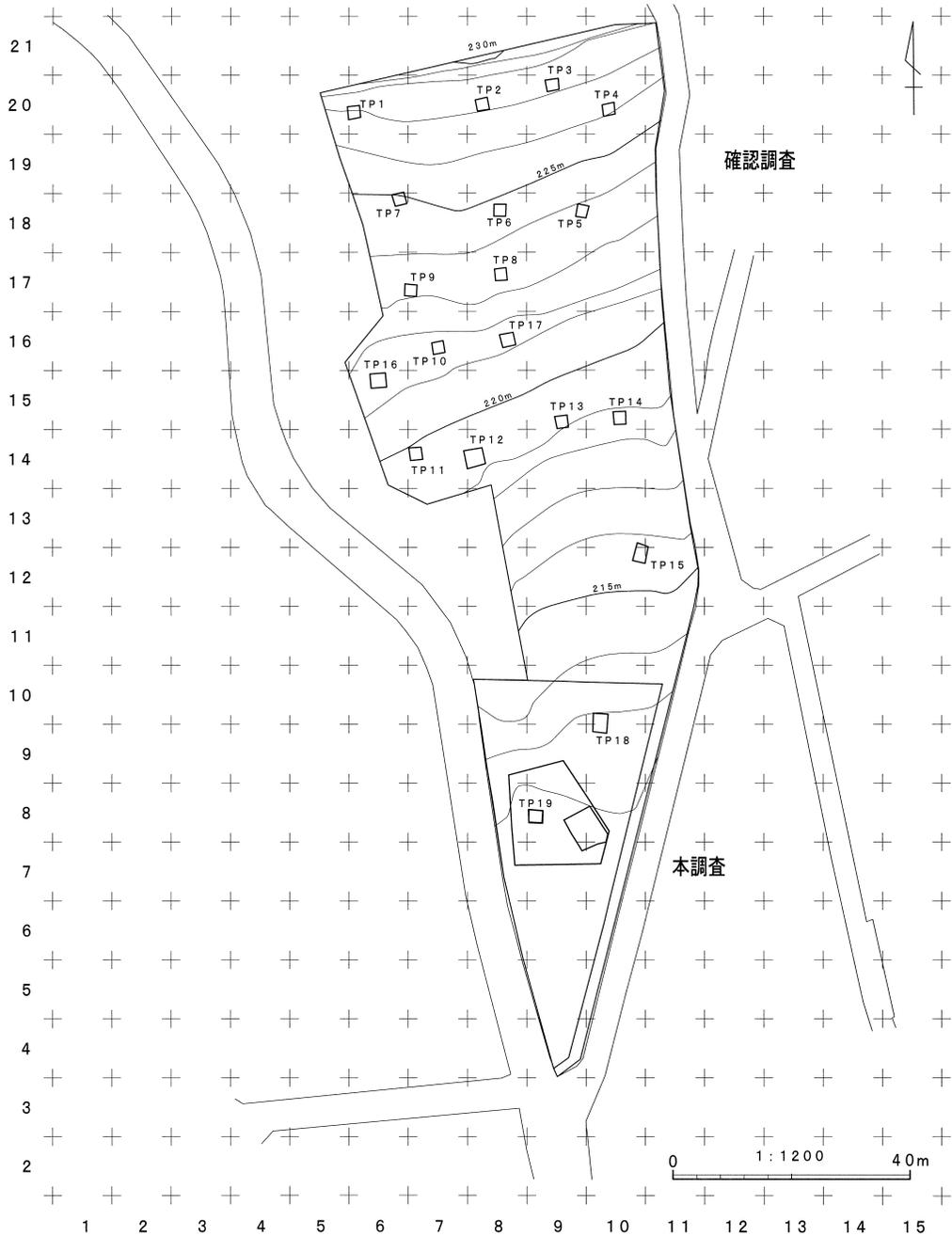
第10層 第II黒色帯（BB II） 20cm～23cmの層厚があるが、下部には径10mm～5mmの比較的大粒のスコリアが多く含まれる。

第11層 第IIスコリア層（SC II） ブロック状の構成を示して不安定なため、明瞭な区分は困難である。

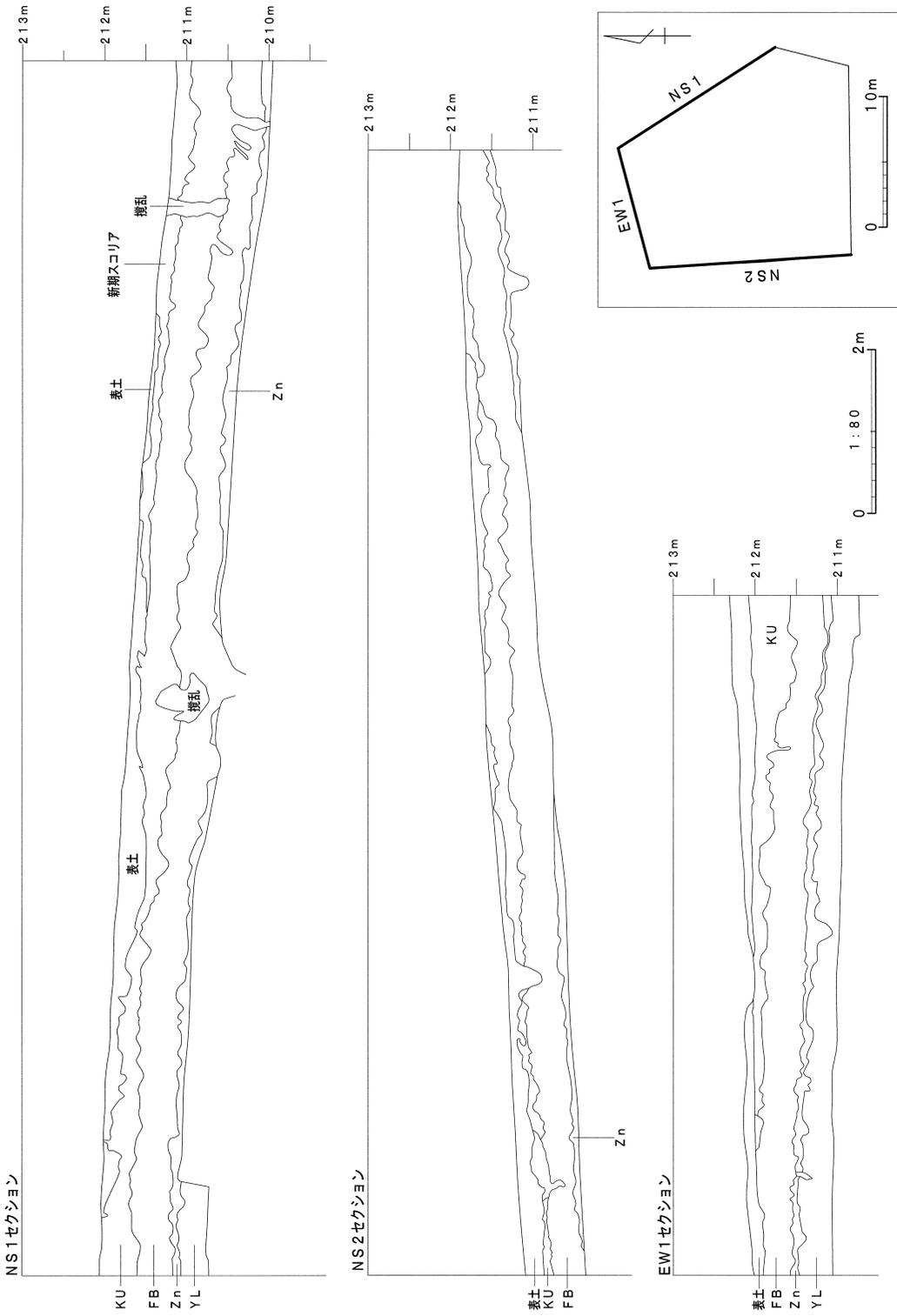
第12層 第III黒色帯（BB III） 層厚は約20cmで、漆黒色を呈して遠目からもよく目立つ層準である。下部ではスコリアの含まれる量がやや多くなる。

第13層（SCⅢ-s1）第Ⅲスコリア帯スコリア1 粒形の揃ったスコリアが密集しており、第12層との境界は比較的明瞭である。

本調査ではNS1セクション（東壁）とNS2セクション（西壁）とEW1セクション（北壁）の土層堆積状況を観察した。基本的に土層は緩斜面に沿ってほぼ平行に堆積しているが、東西方向の土層は東側に向けて層厚が厚くなる傾向があった。



第4図 グリッド配置図



第5図 土層断面図

## 第三章 調査の結果

### 第1節 旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代の遺構と遺物は、松沢川と芹沢川に挟まれた尾根に分布していた。これらの礫・石器は、出土層位・水平分布・垂直分布を検討し、休場層を生活面とする文化層として認識した。

#### (1) 休場層の遺構と遺物の分布状況 (第6図)

休場層の遺構と遺物は、調査区北側を中心に礫・石器が分布していた。石器は調査区北側でブロックを形成していたが、礫は単独出土であった。

##### ①遺構

休場層からは、単独礫1点と2箇所のブロックが検出された。

##### a. ブロック

休場層検出の遺物は、2箇所のブロックから検出された33点と単独出土の3点、合計36点の石器群によって構成されている。ブロックは調査区北側に位置し、調査区外と縄文時代の包含層へ連続していた。

#### 第1号ブロック (第7図)

調査区北側の8～9-9グリッドで確認したブロックである。南側には0.7mの距離を隔てて第2号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約4.2m、短軸約1.2mである。石器類は標高210.98m～211.27mにかけて約29cmのレベル差が生じていた。確認された石器群はナイフ形石器1点、加工痕のある剥片1点、石核5点、剥片・碎片19点である。

#### 第2号ブロック (第7図)

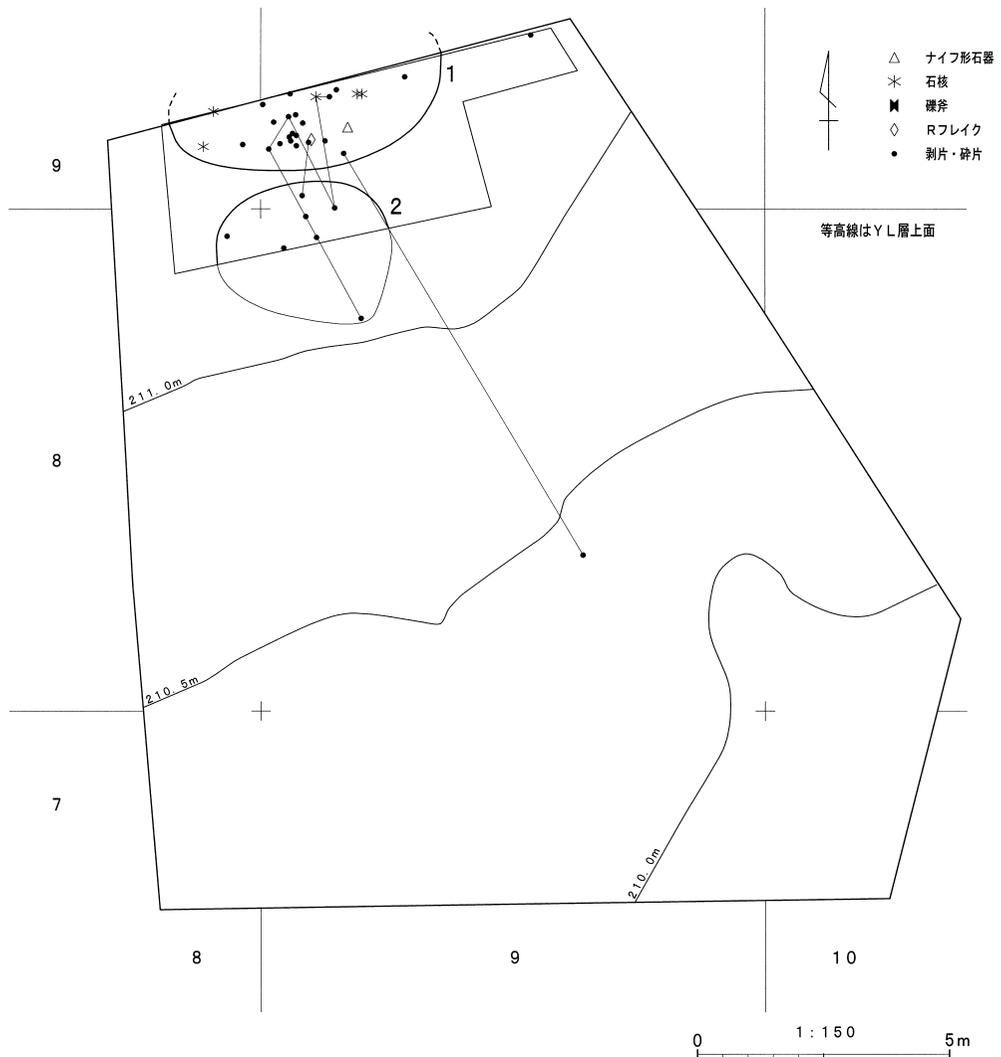
調査区北側の8～9-8～9グリッドで確認したブロックである。北側には0.7mの距離を隔てて第1号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約2.7m、短軸約2.1mである。石器類は標高210.88m～211.21mにかけて約33cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は剥片・碎片7点である。

##### ②遺物

休場層検出の遺物は、調査区北側の2箇所のブロックから検出された33点と単独出土の3点、合計36点の石器群によって構成されている。石器群の内訳は、ナイフ形石器1点、加工痕のある剥片1点、石核5点、剥片・碎片29点であった。出土した石器類は少量で、石器群の主体となるナイフ形石器も1点出土しているにすぎない。したがって、これらの石器類が当該期の内容のすべてを示しているとは考えられないが、ここではこれらの石器類の特徴をとらえていくことにしたい。

#### ナイフ形石器 (第8図1)

ナイフ形石器は二側縁加工のものが1点出土した。第8図1は和田小深沢産の黒曜石を石材とする。最大長が2.9cmである。これは刃部を除く両側縁にブランティングによる調整を加え、刃部と接する部分に先端を作出したものである。ブランティングは主要剥離面側と剥離面側から行われている。刃部には使用痕と思われる微細な剥離が観察された。素材の剥離面と主要剥離面の剥離痕は、180度と90度剥離方向が異なるものであった。このようなあり方から、素材となった石刃の



第6図 休場層石器分布図

生産技術の中には、180度打面転移を行う工程と90度打面転移させている工程が存在するものと思われる。

加工痕のある剥片（第8図2）

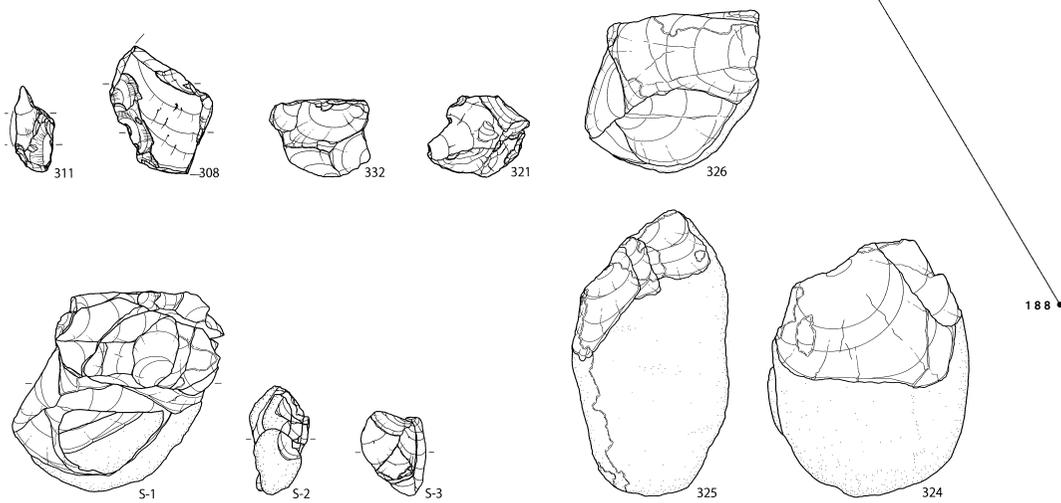
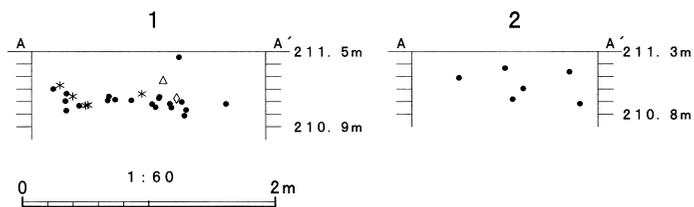
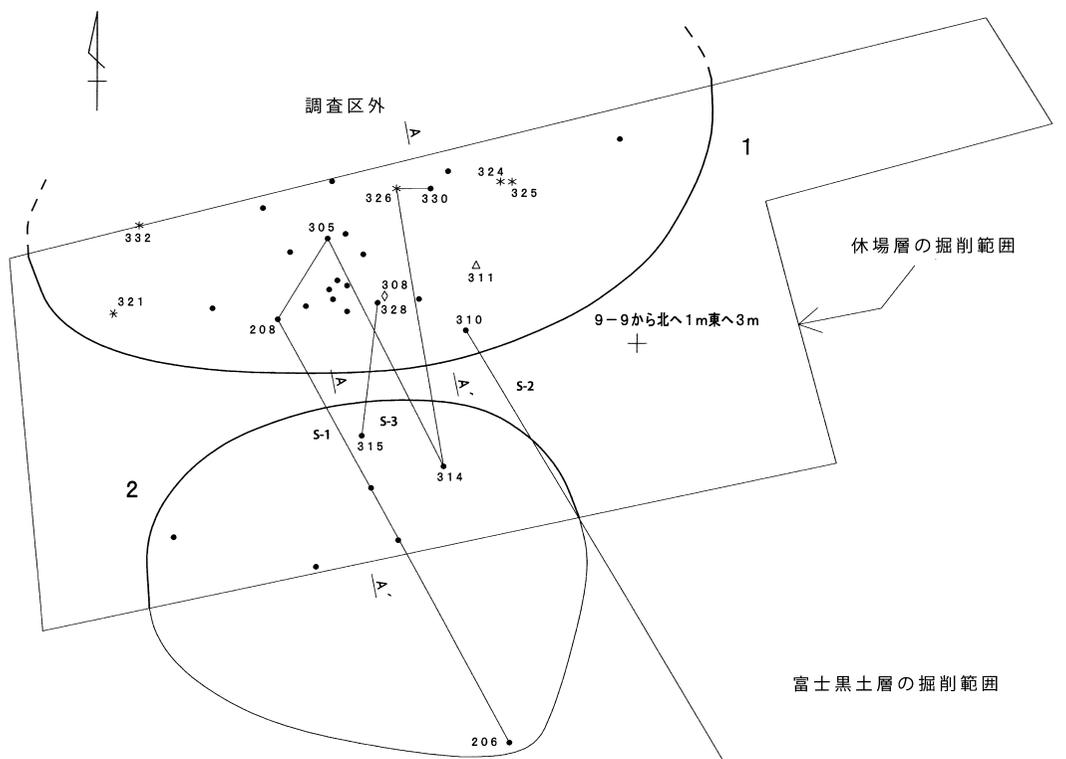
第8図2は箱根畑宿産の黒曜石を石材とする。加工痕のある剥片である。左側縁に刃部のような調整が施されたもので、剥離面側から数回の粗い加工が加えられているものである。

石核（第8図3～第9図7）

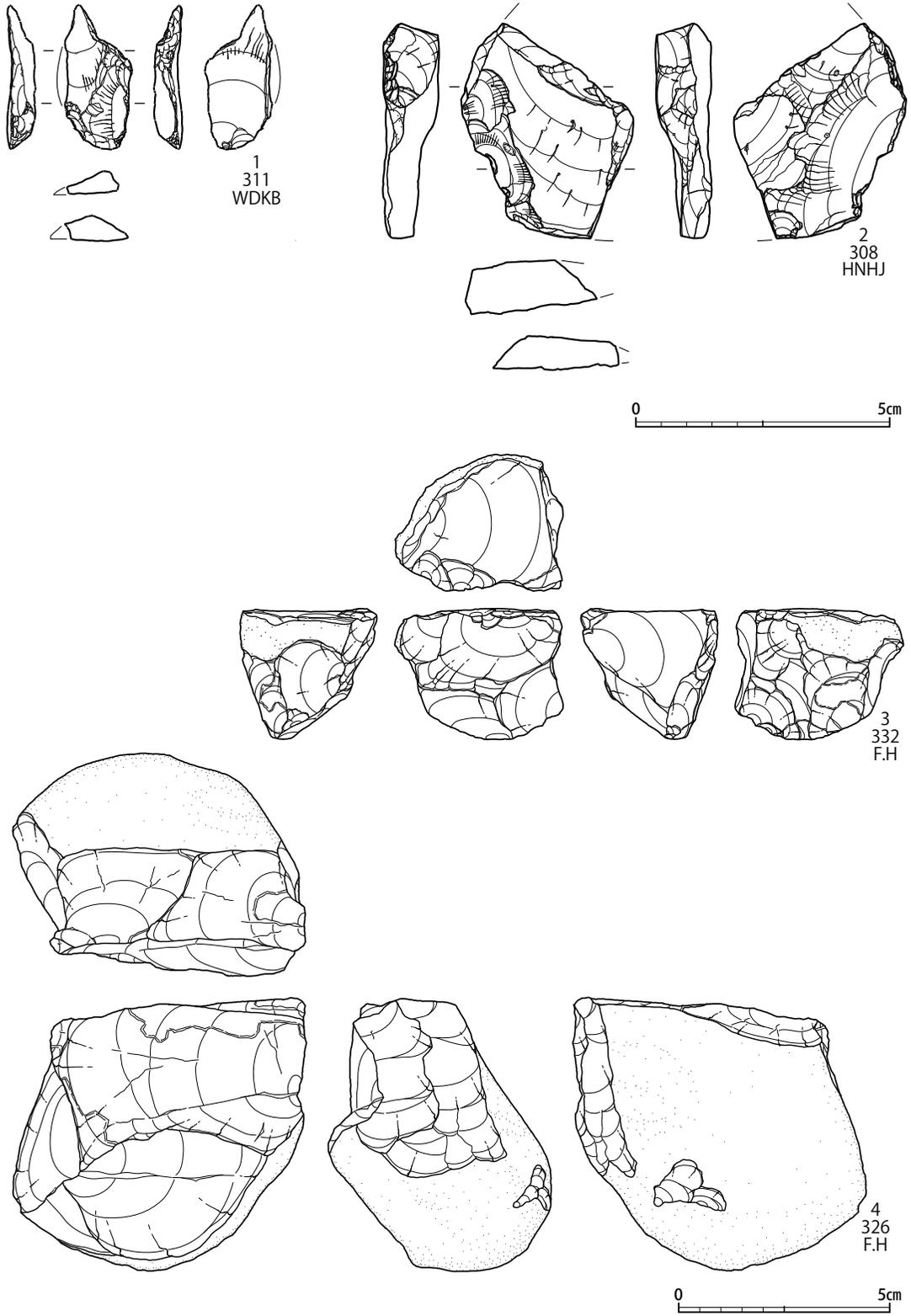
石核はa類：サイコロ状を呈する石核、b類：明確な剥片剥離作業を行わない石核に大別した。

a類 サイコロ状を呈する石核。

剥片剥離作業が二方向以上に観察されるものである。第8図3・4は富士川系ホルンフェルス



第7図 第1号・第2号ブロック実測図



第8図 休場層出土石器実測図(1)

石材とする。2面の剥離作業面をもち、剥離作業面が正面と右側面に認められる。正面の剥離作業面は、上面と側面から90度異なる剥離痕が観察できる。右側面の剥離作業面には、上設打面からの剥離作業(4)と正面の剥離作業面を打面とする剥離作業(3)の剥離痕が残る。上設打面の調整は正面と側面からの調整剥離(4)と側面からの調整剥離(3)がある。裏面に礫面を残すもの(4)や裏面から左側面に礫面を残すものがある(3)。

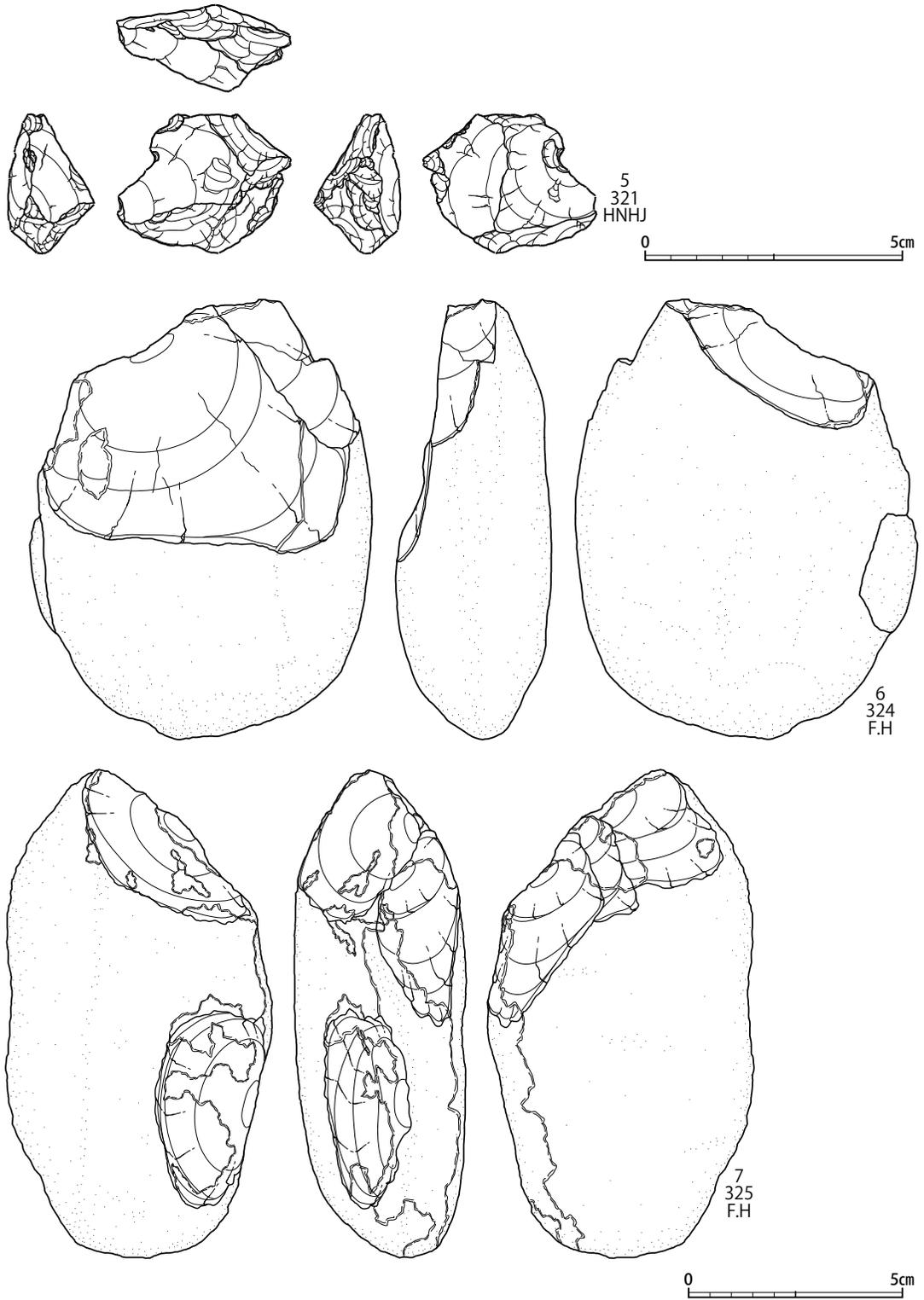
#### **b類 礫に数回の剥離を加えた石核。**

明確な剥片剥離作業が行われたものではなく、打面を形成して礫面を除去するような数回の剥離を加えたもの(6・7)2点や剥片に剥離を加えたもの(5)1点が出土した。6は富士川系ホルンフェルス製を石材とする。上面に打面が形成され、正面に2回の剥片剥離を加えたものであるが、素材礫の礫面を除去する程度の剥離で放棄されたものである。7は富士川系ホルンフェルス製を石材とする。石核素材と思われる礫に打面が形成され、3回の剥離が加えられているもので、石核というよりは素材礫に近いものである。5は箱根畑宿産黒曜石を石材とする。分厚い剥片素材の石核で、正面の剥離面を打面として裏面を剥離作業面としたものである。剥離痕の観察では、定形的な剥片を作出した痕跡は認められない。

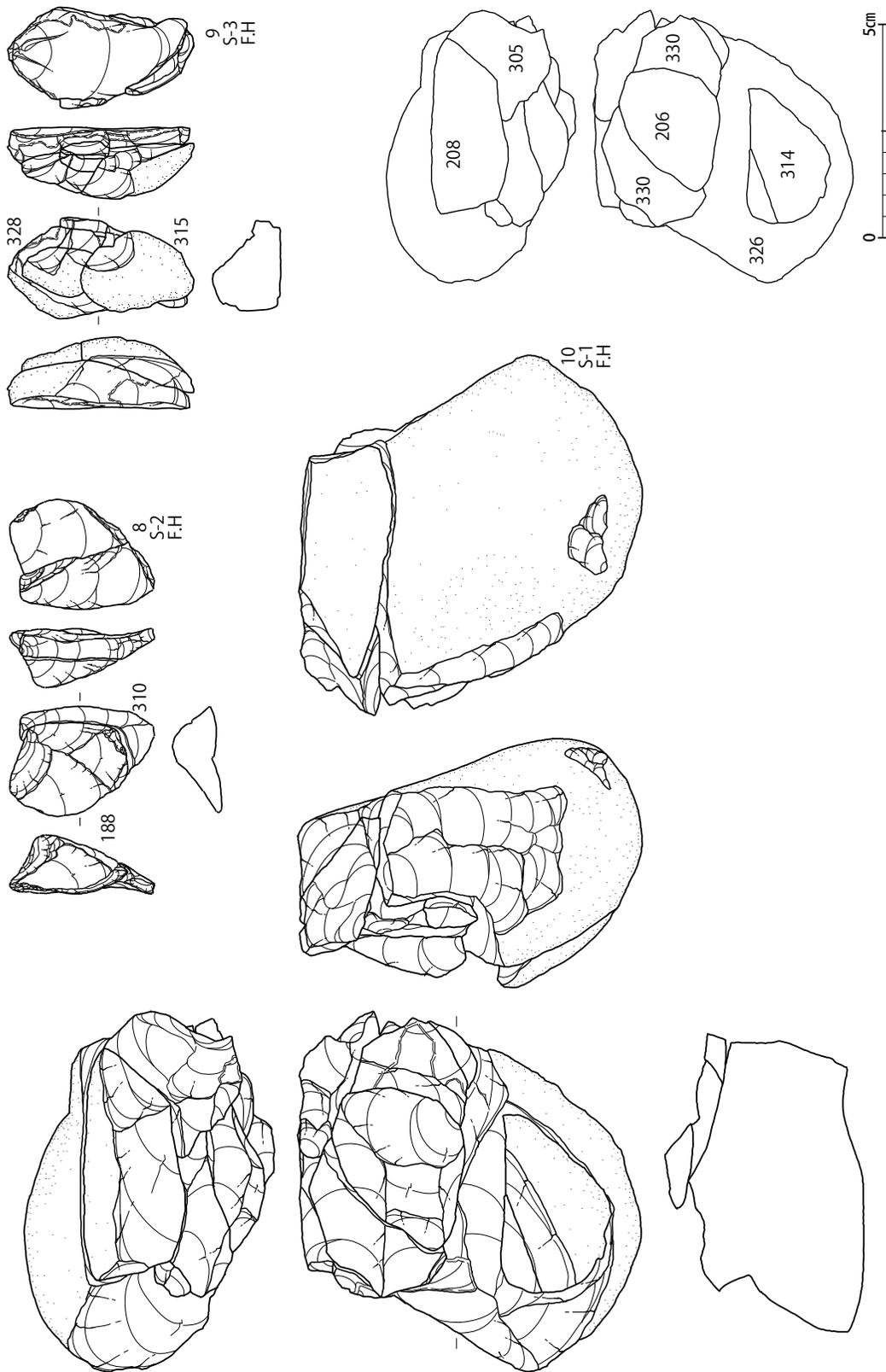
#### **接合資料(第10図8～10)**

接合資料は3点確認した。第10図10は富士川系ホルンフェルス製の石核1点(第8図4)と剥片5点の接合で、これらの接合状態が10である。接合状態は、石核に打面の調整剥片2点と正面を剥離作業面とする剥片2点と右面を打面とする剥片1点が接合している。剥片の剥離過程は、まず上設打面の調整剥離(208→305)が施される。次に、上設打面からの剥片剥離作業を行う(314→206)。さらに、右面の剥離作業面を打面として剥離作業面の調整剥離を行う(330)。剥離面の観察では、上設打面の調整剥離の後、上設打面から右面を剥離作業面とする剥片剥離作業の剥離痕が残っている。

第10図8・9は富士川系ホルンフェルス製の剥片2点の接合状態である。接合状態は、石核からの連続的な剥離を示している。剥離面の観察では、単設打面石核からの連続的な剥離が認められる。8は剥片の剥離過程が188→310である。剥離面の観察では、単設打面石核から188を剥離した後、打面調整を施して310を剥離したものである。9の接合状態は石核素材の円礫から礫面を除去する段階を示している。剥片の剥離過程は、315→328である。



第9図 休場層出土石器実測図(2)



第10図 休場層出土石器実測図(3)

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

本遺跡で確認された縄文時代の遺構は、性格不明の遺構（SX）と遺物包含層があり、そこから出土した土器、石器、礫などの遺物がある。

### （1）縄文時代の遺構と遺物の分布状況（第11図～第13図）

検出されたSX1～SX3は、調査区内の東側に分布をしており、規則的な配列は認められなかった。これらのSXは遺物を出土したものが少なく、明確な構築時期を決定できる状況にないが、出土遺物とSXの形態、覆土の類似性から縄文時代早期に構築されたものと推定している。

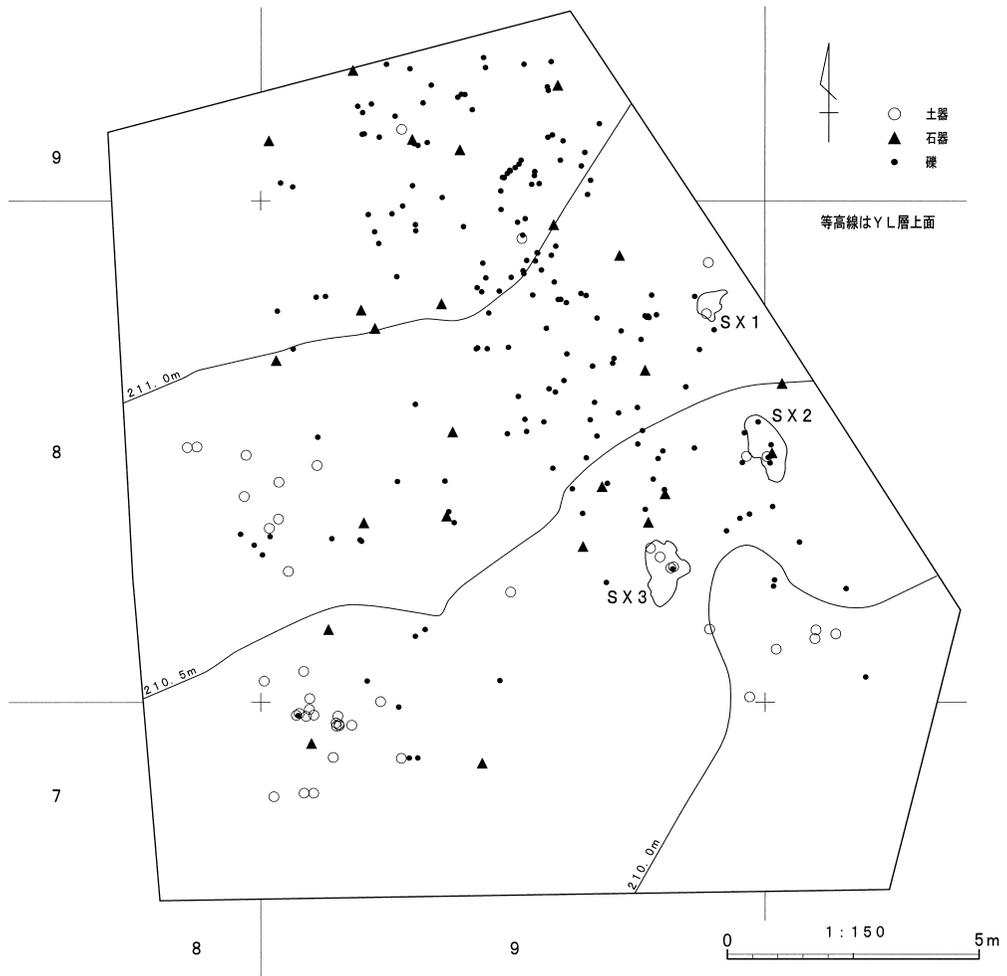
### （2）遺構

#### ①性格不明の遺構

検出されたSXは3基である。これらは平面形と断面形から不正形な形状のものに分類した。

#### SX1（第14図）

調査区東側の9-8グリッドに位置する。確認面の平面形態は不正形を呈する。大きさは確認面



第11図 縄文時代全体図



第 12 図 縄文土器分布図

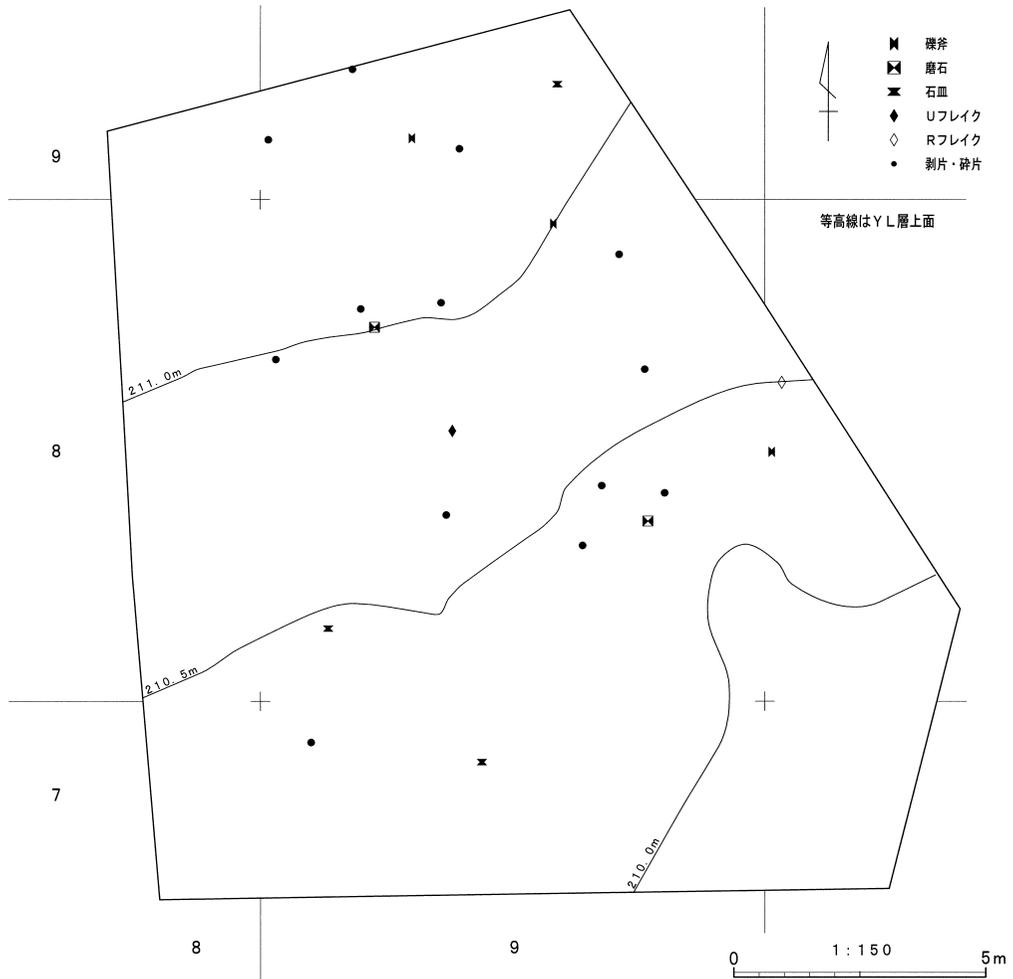
で長軸 70cm × 短軸 50cm で、深さは確認面から 50cm と深いものであった。断面形は U 字状を呈しながら立ち上がる。覆土は、黒色で粘性がやや強く、しまりは弱い。粒径 5mm ~ 3mm のスコリアを 1% 含む。炭化物を主体として富士黒土層・栗色土層・新期スコリア層がブロック状に混じり合う。

**SX2 (第 14 図)**

調査区東側の 9・10 - 8 グリッドに位置する。確認面の平面形態は不正形を呈する。大きさは確認面で長軸 140cm × 短軸 50cm で、深さは確認面から 50cm と深いものであった。断面形は V 字状を呈しながら立ち上がる。覆土は、黒色から黒褐色で粘性が強く、しまりがある。粒径 5mm ~ 1mm のスコリアを 2% 含む。富士黒土層に類似する。

**SX3 (第 14 図)**

調査区東側の 9 - 8 グリッドに位置する。確認面の平面形態は不正形を呈する。大きさは確認面で長軸 130cm × 短軸 90cm で、深さは確認面から 50cm と深いものであった。断面形は鍋底状



第 13 図 縄文石器分布図

を呈しながら立ち上がる。覆土は、黒褐色で粘性が強く、しまりがややある。粒径 5mm ~ 1mm のスコリアを 1% と粒径 5mm ~ 3mm の炭化物を微量含む。富士黒土層に類似する。

(3) 遺物

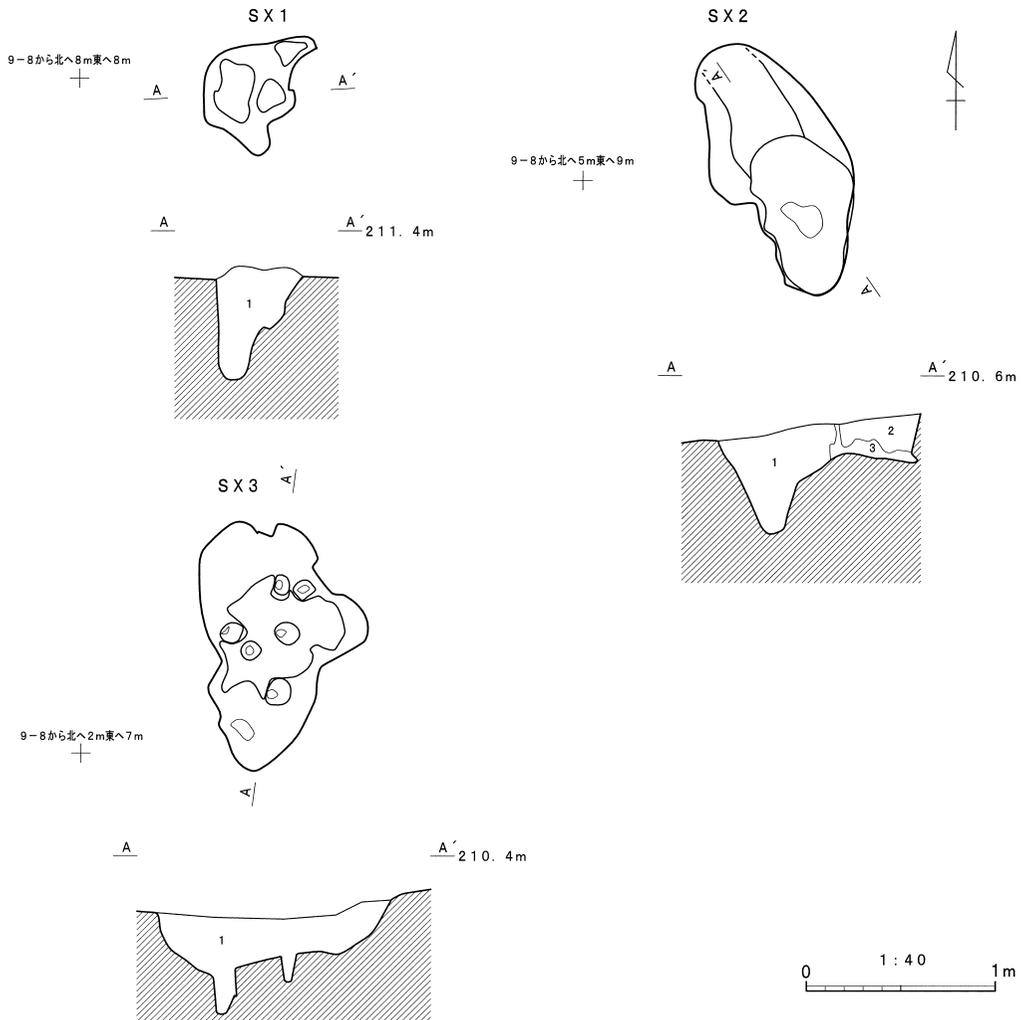
縄文時代の遺物包含層は第 2 層新期スコリア層~第 4 層富士黒土層に形成されていた。遺物は縄文時代早期前葉から縄文時代早期後葉に属する土器 55 点、石器 20 点、礫 179 点が出土しており、特に早期前葉の押型文系と早期後葉の条痕文系の土器が多かった。

①縄文土器

1 群 押型文系土器

a 類 山形文を施す土器 (第 14 図 1 ~ 5)

第 15 図 1 ~ 2 は山形押型文を異方向に帯状施文する土器である。やや外反する口縁をもち、口唇部に刺突がめぐる。一山の高さ 4mm、一山の長さ 6mm の山形文が施される。施文部以外はナデが施されて平滑である。口縁部の内面には横位の山形文が 1 cm の幅で施される。これらの土器は



第 14 図 SX1・SX2・SX3 実測図

器壁が 5mm ～ 4mm と薄く、透明から半透明の微細な白色粒子と金色の雲母を含む。

3 ～ 5 は山形押型文の縦位の帯状施文が認められる胴部の破片であり、1 ～ 2 に類似する特徴をもつ。これらは樋沢式に併行する押型文である。

#### b 類 押型文に併行する土器 (第 14 図 6)

第 15 図 6 は比較的小粒の単節 RL の縄文を斜方向に施文する。器壁が 6mm と薄く植物繊維は含まれない。押型文に類似する胎土である。

#### 2 群 条痕文系土器

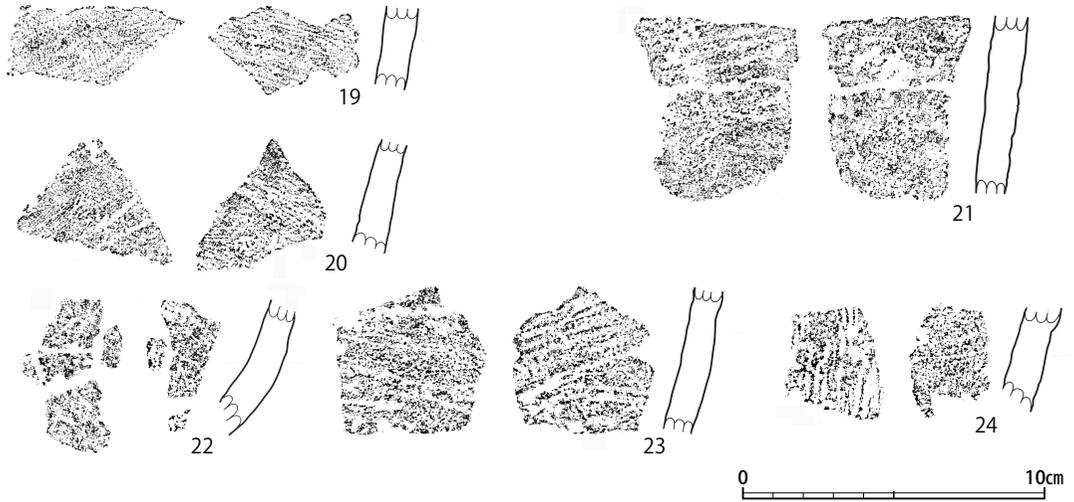
##### a 類 低い隆帯に縄文を施文する土器 (第 14 図 7 ～ 13)

第 15 図 7 ～ 13 は頸部に二条の低い隆帯を横方向に貼付して口縁部文様帯を構成し、比較的大粒の単節 RL の縄文を施す。内面は幅 3mm ほどの広い条痕で整える。器壁は 11mm 前後と厚く、胎土には 4mm ～ 1mm のデイサイト様の灰白色粒子を含み、繊維を混入した痕跡が残る。

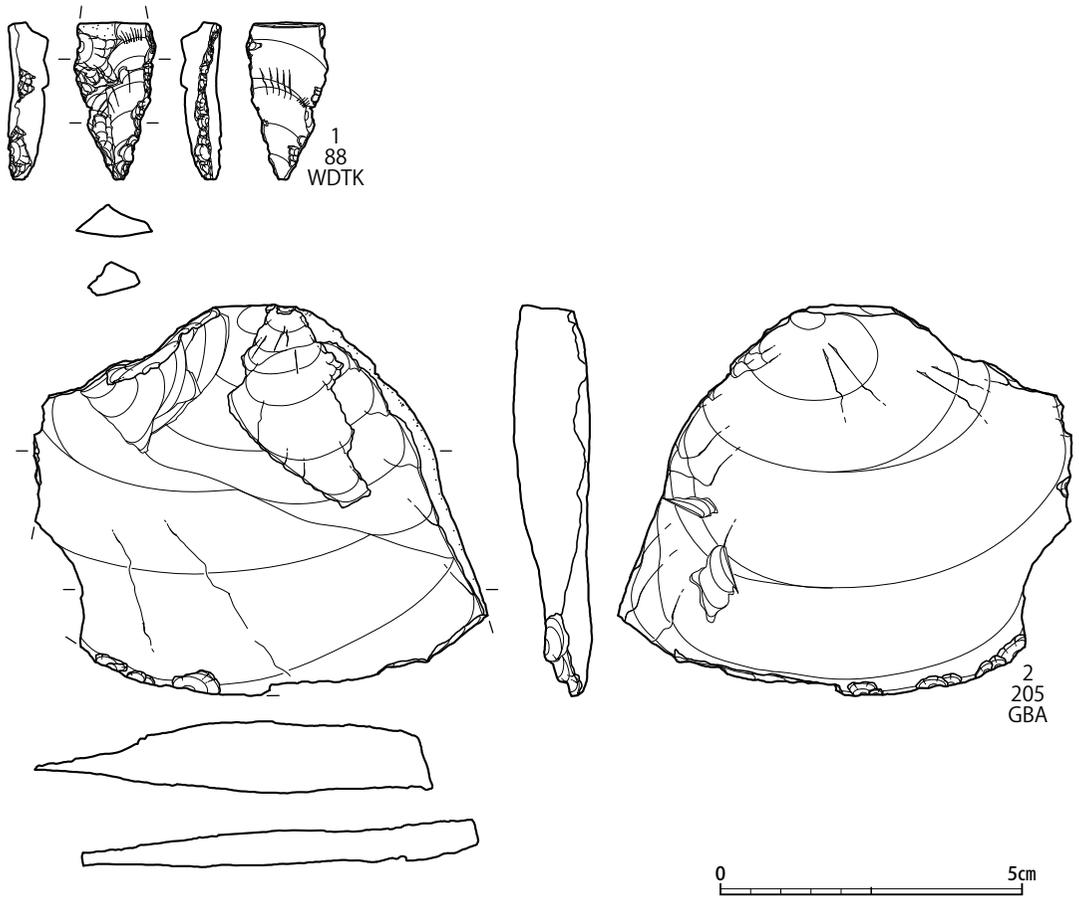
8 ～ 9 は口縁部の破片で口唇部に篋状工具による刻みが施文される。8 は内面に幅 3mm ほどの



第 15 図 縄文土器拓影図 (1)



第 16 図 縄文土器拓影図 (2)



第 17 図 縄文石器実測図 (1)

幅広い条痕が残る。9は外面に単節のRLの縄文を施す。器壁は10～13mmと厚く、繊維を混入した痕跡が残る。

#### b類 低い隆帯に条痕を施す土器（第14図14～第15図22）

第15図14～第16図22は口縁部付近へ横方向に二条の隆帯を貼付け、器面の内外面を条痕で整える。器壁は11mm前後で素地に繊維を混入した痕跡が残る。

22は底部付近の破片で尖底になると思われる。23～24は胴部の破片で器面の内外面を条痕や擦痕で整える。器壁は11mm前後で素地に繊維を混入した痕跡が残る。これらの条痕文系土器は茅山上層式に比定される。

### ②石器

縄文時代の石器は20点出土した。このうち、定形的な石器は、礫斧3点、磨石2点、石皿3点があり、このほか加工痕のある剥片1点、使用痕のある剥片1点、剥片・碎片10点がある。これらはすべて縄文時代に属するものと思われるが、出土土器の比率に準拠すれば、おおむね縄文時代早期前葉の押型文や早期後葉の条痕文系土器群に伴う石器群と考えられよう。

#### 加工痕のある剥片（第17図1）

1は片面に加工痕のある剥片である。器体は左右対称で中央に最大幅を有している。下端部は先鋭で断面形がD字状を呈する。素材剥片の主要剥離面側から行われる急斜度の調整で刃部を整える。石材は和田土屋橋北産の黒曜石である。

#### 使用痕のある剥片（第17図2）

2は使用痕のある剥片である。幅広い剥片を素材として、鋭利な縁辺の一部に使用痕と考えられる細かな剥離の認められる剥片である。石材はガラス質黒色安山岩である。

#### 磨石類（第17図3～4）

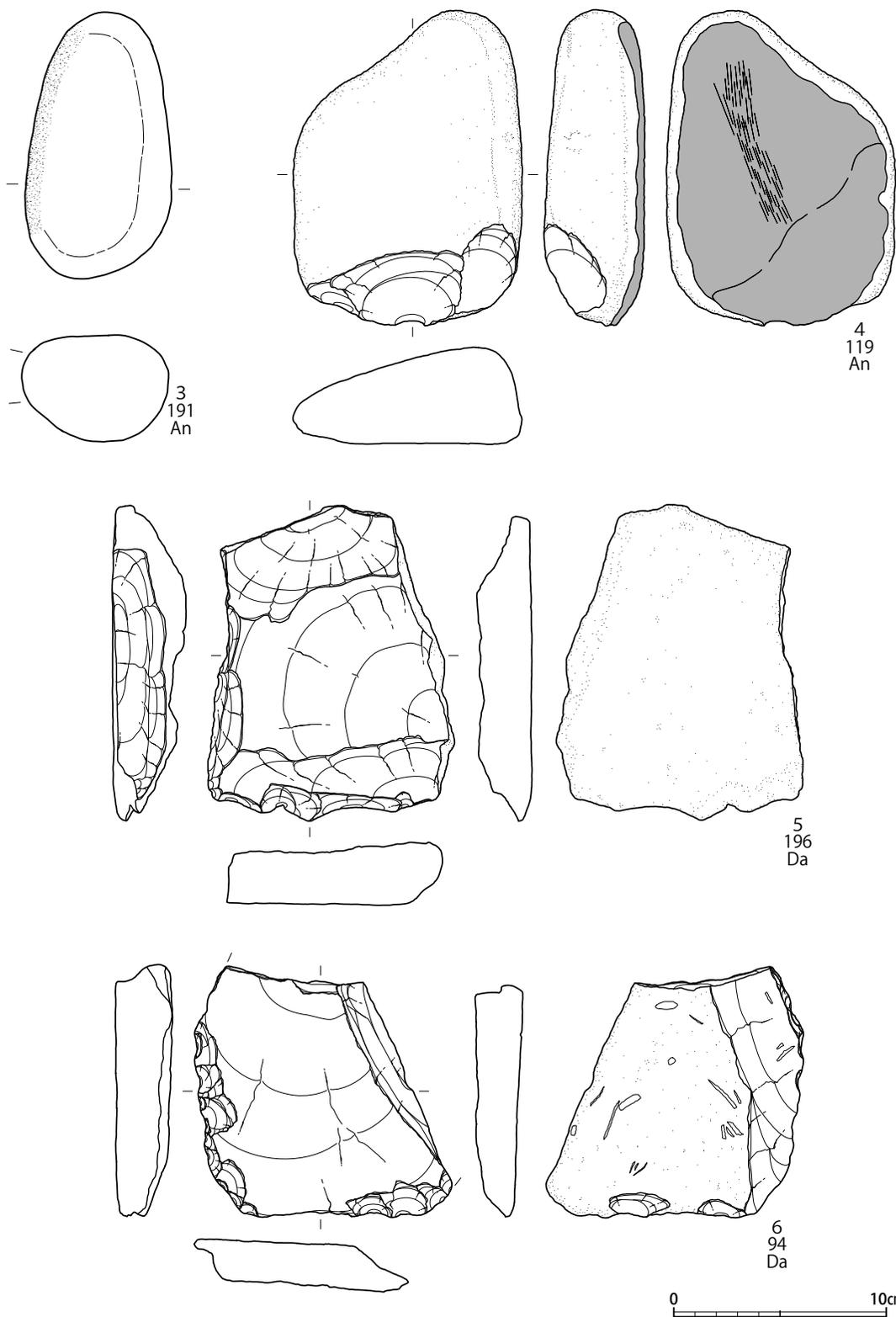
3～4は磨石類である。磨石だけでなく、敲石としての機能も併せ持つものが多いことから磨石類とした。3はいわゆる特殊磨石で円礫の稜線部に細長く磨面が残る。4は磨石+敲石で表面に磨面があり、下端部に敲打痕と衝撃剥離が観察できる。石材はいずれも安山岩製である。

#### 礫斧（第17図5～7）

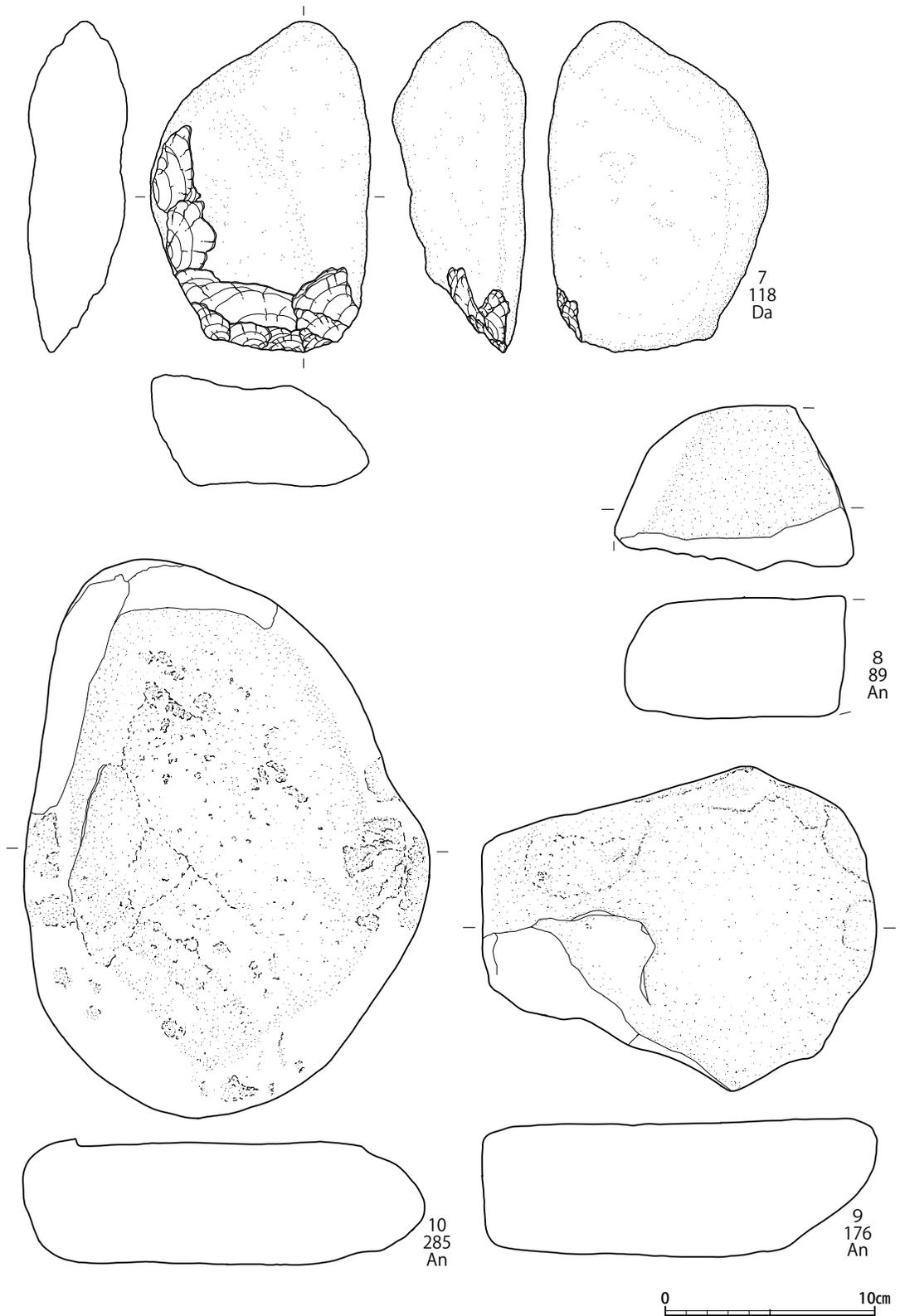
5～7は礫斧で、礫の一端に剥離を加え刃部を作出したものである。刃部は片刃のものが多い。5と6は板状礫を素材として短冊状の片刃礫器としたもので、調整は裏面の自然面を打面として大きな剥離で器体を薄く整え、素材の縁辺に自然面を打面とする小さな剥離を数回繰り返して刃部としている。7は重量のある平坦な礫の端部に片面から数回の剥離を加えて片刃の礫器としたものである。石材は全てデイサイト製である。

#### 石皿（第18図8～9）

8～9は石皿である。いずれも無縁型で平坦面に磨り面が残る。8は板状の円礫を素材として片面に磨り面が観察できるが、あまり使用が進んでいない。9は板状礫の片面に磨面が観察できる石皿で、あまり使用が進んでいない。大きく破損している。石材は安山岩製である。



第18図 縄文石器実測図(2)



第19図 縄文石器実測図(3)

## 第IV章 蛍光X線分析法による拓南遺跡出土黒曜石の原産地推定

池 谷 信 之

### 1. はじめに

沼津市文化財センターでは、第二東名高速自動車道路関係の整理事業において取り扱う膨大な黒曜石製石器に対応することを目的として、平成17年度に島津製作所製エネルギー分散型蛍光X線分析装置 EDX-900HS を導入した。これ以降、市内の遺跡については独自に産地推定を行っている。

### 2. 分析対象

分析対象は拓南遺跡出土の黒曜石製石器 11 点である。旧石器時代・縄文時代ともに出土黒曜石のうち、分析可能なサイズのものすべてを対象とした。

### 3. 分析方法

#### a. 原産地推定法

エネルギー分散型蛍光X線分析 (EDXRF) は一次X線 (励起X線) を照射したとき、その物質に特有の波長の二次X線 (蛍光X線) が発生することを利用した方法である。その原理や具体的な手続きについては、複数の研究者による紹介があるので、ここでは重複を避ける。蛍光X線分析法の特徴として、非破壊で1点あたりの測定に要する時間が数分と短く、機器の価格を含めた測定コストが他の化学分析に比べて低い点が挙げられる。

#### b. 測定条件

測定機器	島津製作所製蛍光X線分析装置 EDX-900HS (エネルギー分散型)		
X線管球	Rh ターゲット		
電圧	軽元素側 (～K) 側：15kVA	重元素側 (Ti～)：	50kVA
電流	自動 (1000 $\mu$ A)	照射径	10mm
検出器	SSD 検出器	雰囲気	真空
測定時間	軽元素側 (～K) 側：200 秒	重元素側 (Ti～)：	200 秒

#### c. 原産地試料

対比資料となる原産地黒曜石については、和田 (WD) エリア・和田 (WO) エリア・諏訪エリア・蓼科エリア・天城エリア・箱根エリア・神津島エリア・高原山エリアの各地点から採集した。エリア内の地点については、紙数の関係から記載を省略した。

#### d. 原産地推定方法

上記の測定条件のもと、まず遺跡出土石器の対比資料となる原産地黒曜石の測定を行った。その結果、珪素 (Si)・カルシウム (Ca)・カリウム (K)・チタン (Ti)・クロム (Cr)・マンガン (Mn)・鉄 (Fe)・亜鉛 (Zn)・ルビジウム (Rb)・ストロンチウム (Sr)・イットリウム (Y)・ジルコニウム (Zr)・ニオブ (Nb)・スズ (Sn) が検出された。



### 〈判別図による推定〉

測定された元素の強度にもとづいて、以下の指標を計算し、判別図を作成する。

Rb 強度× 100/(Rb 強度 +Sr 強度 +Y 強度 +Zr 強度) → 第 20 図の X 軸

Mn 強度× 100/Fe 強度 → 第 20 図の Y 軸

Sr 強度× 100/(Rb 強度 +Sr 強度 +Y 強度 +Zr 強度) → 第 21 図の X 軸

log(Fe 強度 /K 強度) → 第 21 図の Y 軸

2つの判別図上に、さらに遺跡出土黒曜石の測定結果をプロットし (△印)、その分布範囲の重なりから産地を判断する。

〈判別分析 (多変量解析) による推定〉 判別図法の判断を検証するために多変量解析の一手法である判別分析を行い、マハラノビス距離と帰属確率を求めている。

## 4. 推定結果

分析資料 1 点ごとの推定結果を第 1 表に示した。分析番号 01～06 の帰属時期は旧石器時代、分析番号 07～11 の時期は縄文時代として扱われているが、ともに 1 点を除き箱根畑宿産黒曜石という結果となった。

第 1 表 黒曜石原産地推定結果

分析番号	遺物No.	器種	推定産地	判別図判別群	判別分析						Rb%	Mn/Fe	Sr%	Fe/K
					候補1	距離1	確率1	候補2	距離2	確率2				
H21拓南遺跡-01	311	ナイフ形石器	WDKB	WDKB	WDKB	4.63	1.00	WDTY	27.19	0.00	53.16	12.06	1.75	3.75
H21拓南遺跡-02	308	加工痕有剥片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	7.66	1.00	HNK1	66.23	0.00	5.11	3.63	35.48	45.38
H21拓南遺跡-03	321	石核	HNHJ	HNHJ	HNHJ	6.96	1.00	HNK1	65.82	0.00	4.72	3.44	34.54	45.32
H21拓南遺跡-04	312	剥片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	12.04	1.00	HNK1	79.37	0.00	4.81	3.50	33.92	46.36
H21拓南遺跡-05	319	碎片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	33.21	1.00	HNK1	144.74	0.00	5.13	3.42	35.32	50.93
H21拓南遺跡-06	320	碎片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	20.74	1.00	HNK1	119.90	0.00	5.80	3.64	38.16	48.40
H21拓南遺跡-07	88	加工痕有剥片	WDTK	WDTK	WDTK	6.41	1.00	WDKB	14.03	0.00	53.94	11.31	1.99	3.57
H21拓南遺跡-08	87	剥片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	8.37	1.00	HNK1	80.27	0.00	5.20	3.58	35.22	46.50
H21拓南遺跡-09	107	剥片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	5.07	1.00	HNK1	62.00	0.00	4.83	3.53	34.29	43.89
H21拓南遺跡-10	207	剥片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	7.34	1.00	HNK1	57.98	0.00	4.91	3.57	33.53	43.66
H21拓南遺跡-11	210	剥片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	4.34	1.00	HNK1	84.28	0.00	4.74	3.51	36.95	45.21

## 第V章 調査の成果

### 旧石器時代

本文化層は、2箇所のブロックから検出された33点と単独出土の3点、合計36点の石器群によって構成される極めて小規模な文化層である。また、2箇所のブロックは近接して形成されており、ブロック範囲は調査範囲外まで広がると考えられる状況にあった。

石器組成はナイフ形石器を組成する文化層で、これに僅かな量の加工痕のある剥片1点、石核5点、剥片・碎片29点が伴う。

ナイフ形石器は中形の二側縁加工のものが1点認められたものの、量的に乏しい傾向にあった。

石材組成は、第一石材が富士川系ホルンフェルス30点(83%)、1,361.3g(98%)であり、出土点数・重量ともに比率が高い。この他、第二石材が黒曜石6点(17%)、28.6g(2%)である。

石器石材は、ナイフ形石器1点が黒曜石である。一方、石核石材は富士川系ホルンフェルス4点、黒曜石1点と富士川系ホルンフェルスが占める割合が高く、剥片も富士川系ホルンフェルス22点(419.5g)、黒曜石1点(3.4g)と富士川系ホルンフェルスが多い傾向にある。

剥片剥離技術は、接合資料の観察から石刃・縦長剥片を目的としていたと思われる。剥片の観察では、剥片剥離方向を一定方向にしたもの、対向する二方向から剥片剥離を行う180度の打面転移技術をもつもの、90度の打面転移を行うものが認められた。この他、礫素材の石核に粗い打面形成と剥片剥離を行うものが認められた。

本文化層は、第5層休場層を中心とした垂直分布が認められたもので、愛鷹ローム層の最上層から出土している。これまで休場層では多様な石器群が出土しているが、本文化層にナイフ形石器が組成されることから、ナイフ形石器石器群の中では最も新しい時期の石器群と推定される。ナイフ形石器は二側縁加工のものがあり、石刃を素材として製作されている。石核と接合資料は石刃・縦長剥片を目的としていたことが推測される。このような剥片剥離の状況から本文化層は石刃技法を技術基盤としていた可能性が高いと思われる。そして、「東海地方の地域編年」(高尾2006)に準拠すれば、本文化層は第4期の石器群として位置づけられよう。

### 縄文時代

本遺跡で検出された縄文時代の遺構と遺物は、性格不明の遺構3基と土器55点、石器20点、礫179点など総計254点であったが、調査区全体に遺構と遺物包含層が広がっていたことを確認することができた。ここでは、遺構と遺物について簡単にまとめておく。

検出されたSX3基は、平面形態が不整形な形状のものに分類される。その規模は、長軸70cm～140cm×短軸50cm～90cm×深さ50cmであり、調査区東側に偏在することが確かめられたが、SXに伴う遺物は少なく、所属する時期の決定を困難にしている。一方、覆土はSX1が炭化物を主体として富士黒土層～新期スコリア層がブロック状に混じり合う特徴を示し、SX2・SX3が富士黒土層に類似することから構築年代の相違が覆土の堆積に反映しているものと考えられる。出土遺物、覆土の状況からおおむね、SX2・SX3が縄文時代早期に位置づけられるものと考えられる。そして、SX1は覆土に新期スコリアを含有することから、SX2・SX3より新しい段階に構築されたものと思

われる。本遺跡で検出された性格不明の遺構は集落の構成施設ではないが、出土した土器・石器・礫から推定すると、周辺部には縄文時代早期に属する野営地が存在した可能性が高いと思われる。

本遺跡で出土した土器は、総点数 55 点であった。遺構外出土の土器は、そのほとんどが富士黒土層から栗色土層にかけて出土している。これらの土器は型式学的な特徴から縄文時代早期前葉と早期後葉に分類され、そのほか小破片のため時期不明とした 1 群を加えて 3 群に分類された。組成比は、縄文時代早期後葉がやや多い傾向にあった。

第 1 群は早期前葉の山形押型文を異方向に帯状施文する土器である。やや外反する口縁をもち、口唇部に刺突がめぐり、内面には横位の山形文が施される。器壁が薄く、透明から半透明で微細な白色粒子と雲母を含む。これらの特徴から樋沢式に併行する押型文土器と位置づけられる。

第 2 群は早期後葉の条痕文系土器である。これらは、低い隆帯に縄文を施文するものと条痕で整えるものがあり、口縁部付近に横方向に二条の隆帯を貼付け、器面の内外面に条痕が施される点や、器壁は 11mm 前後で素地に繊維を混入した痕跡が残り、デイサイト様の不透明な灰白色粒子を含む特徴から、茅山上層式に比定されるものである。

本遺跡出土の石器は総数 20 点で、剥片・破片を除いた石器は 10 点である。これらの石器は、縄文時代早期前葉と早期後葉のものが混在していることが予想されるが、各に特徴的な石器を抽出することが困難であるため、全体としての組成について概観することとする。出土石器は加工痕のある剥片 1 点、使用痕のある剥片 1 点、磨石類 2 点、石皿 3 点、礫斧 3 点である。この中では狩猟具である石鏃や工具・加工具等が欠落し、食料加工具がわずかながらも組成していることが特徴となっている。これは、本遺跡が一時的に食料加工具を用いる場所として利用されたこと示唆していると言えよう。

〈引用参考文献〉

愛鷹ローム団研グループ 1969 「愛鷹山麓のローム層」『第四紀研究』 8-1

由井将雄 1993 「愛鷹火山の地形発達史」『駿台史學』 第 87 卷

柴田 徹 2002 「愛鷹山麓出土石器の石材鑑定」『西洞遺跡 (c・d 区) 発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書 第 78 集

鈴木敏中・伊藤恒彦他 1999 『初音ヶ原遺跡』三島市教育委員会

池谷信之 1998 『土手上遺跡 (d・e 区 -2) 発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書 第 64 集

高尾好之 2006 「東海地方の地域編年」『旧石器時代の地域編年的研究』 同成社

富樫孝志・中村雅之 2007 『向田 A 遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第 178 集

池谷信之 2009 『黒曜石考古学』 新泉社

沼津市教育委員会 2002 『沼津市史 資料編 考古』

原田雄紀 2009 『清水柳北遺跡 (3 次) 発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書 第 96 集

笹原千賀子 2009 『梅ノ木沢遺跡 II』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第 206 集

阿部 敬 2009 『秋葉林遺跡 I』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第 207 集

原田雄紀・小崎晋他 2010 『尾巻遺跡 (第 2 次)・清水柳北遺跡 (第 2 次) 発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書

第 98 集

第2表 旧石器時代休場層石器一覧表

図版番号	遺物番号	接合番号	ブロック	層位	器種	石材	Ob 産地	長さ (cm)	厚さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	X座標	Y座標	Z座標
1	311		1	YL	ナイフ	Ob	WDRB	2.9	0.5	1.3	1.6	91.728	91.625	211.274
2	308		1	YL	加工環剥片	Ob	HNHU	4.5	0.7	3.1	1.30	91.007	91.376	211.125
3	321		1	YL	石核	Ob	HNHU	3.5	1.6	2.7	10.0	88.862	91.236	211.162
4	332		1	YL	石核	FH		3.9	3.8	3.1	43.3	89.064	91.936	211.231
5-10	326	S-1	1	YL	石核	FH		6.7	4.2	6.0	258.0	91.096	92.230	211.142
6	324		1	YL	石核	FH		9.7	3.3	7.3	7.3	91.917	92.286	211.069
7	325		1	YL	石核	FH		11.3	4.0	6.0	346.0	92.009	92.285	211.073
8	188	S-2		KU	剥片	FH		2.5	0.7	2.3	6.1	96.388	83.106	210.753
8	310	S-2	1	YL	剥片	FH		3.1	0.5	1.4	2.9	91.647	91.103	211.082
9	315	S-3	2	YL	剥片	FH		4.0	1.0	2.0	8.0	90.822	90.263	211.090
9	328	S-3	1	YL	剥片	FH		4.3	1.0	2.2	9.6	90.951	91.323	211.098
10	206	S-1	2	FB	剥片	FH		3.1	0.9	2.7	9.7	91.990	87.819	211.219
10	208	S-1		FB	剥片	FH		5.0	1.1	2.9	20.1	90.160	91.191	211.454
10	305	S-1	1	YL	剥片	FH		3.3	1.1	3.6	11.8	90.555	91.833	211.141
10	314	S-1	2	YL	剥片	FH		2.5	1.1	4.1	10.1	91.467	90.019	211.167
10	330	S-1	1	YL	剥片	FH		6.1	1.0	3.2	21.6	91.365	92.231	211.067
	301		1	YL	剥片	FH		3.3	0.9	1.7	4.4	90.383	91.296	211.053
	302		1	YL	剥片	FH		0.4	0.5	0.4	0.2	90.568	91.428	211.138
	303		1	YL	剥片	FH		5.2	1.3	4.5	40.6	90.708	91.459	211.128
	304		1	YL	剥片	FH		2.2	0.9	2.1	5.3	90.259	91.725	211.116
	306		1	YL	剥片	FH		1.4	0.6	1.3	1.3	90.695	91.870	211.110
	307		1	YL	剥片	FH		7.2	1.9	3.4	54.0	90.836	91.707	211.111
	309		1	YL	剥片	FH		0.7	0.2	0.6	0.1	91.277	91.352	211.034
	312		1	YL	剥片	Ob	HNHU	2.5	1.1	2.0	3.4	90.042	92.075	211.164
	313		2	YL	剥片	FH		4.1	0.6	3.4	8.9	91.107	89.431	211.138
	316		2	YL	剥片	FH		2.1	0.5	3.0	3.8	90.894	89.847	210.919
	318		2	YL	剥片	FH		3.2	0.4	1.0	1.6	90.457	89.219	210.883
	319		2	YL	剥片	Ob	HNHU	1.1	0.5	0.9	0.5	89.332	89.455	211.005
	320		1	YL	剥片	Ob	HNHU	0.9	0.1	0.9	0.1	89.645	91.279	211.056
	323		1	YL	剥片	FH		5.4	1.5	5.2	50.6	91.503	92.369	211.104
	327		1	YL	剥片	FH		4.8	1.8	6.0	61.6	90.586	92.288	211.202
	329		1	YL	剥片	FH		5.0	1.7	2.3	15.8	90.709	91.254	210.988
	331		1	YL	剥片	FH		3.8	2.4	6.0	66.5	92.857	92.627	210.927
	334		1	YL	剥片	FH		2.0	1.0	1.9	5.2	95.354	93.460	210.997
	335		1	YL	剥片	FH		0.5	0.1	0.5	0.1	90.597	91.350	211.083
	336		1	YL	剥片	FH		0.9	0.1	0.4	0.1	90.633	91.500	211.081

第3表 旧石器時代休場層礫一覧表

遺物番号	出土遺構	層位	種類	状態	石材	接合番号	重さ	大ケリット		X座標	Y座標	Z座標
								YL	B2			
333	GR1D	YL	礫	B2	An		240.0		8-9	88.866	91.422	211.191

第4表 縄文時代土器一覧表 (1)

図版番号	遺物番号	接合番号	出土遺構	層位	種別	分類	大ケリット		X座標	Y座標	Z座標
							1a	10-8			
1	141		GR1D	FB	縄文土器	1a	10-8	101.011	81.442	210.405	
2-3	140		GR1D	FB	縄文土器	1a	10-8	100.99	81.270	210.494	
4	139		GR1D	FB	縄文土器	1a	10-8	101.404	81.365	210.423	
5	130		GR1D	FB	縄文土器	1a	10-8	100.221	81.060	210.352	
6	132		GR1D	FB	縄文土器	1b	9-8	97.726	83.077	210.592	
7	160		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-7	91.500	79.526	210.662	
7	163		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-7	91.493	79.589	210.658	
7	164		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-7	91.528	79.725	210.557	
7	165		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-7	91.436	78.900	210.589	
7	169		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-7	90.899	79.721	210.877	
8	190		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-7	90.259	78.115	210.781	
9	168		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-7	90.705	79.741	210.825	
10	173		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-8	90.850	80.619	210.926	
11	295		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-7	90.741	79.737	210.750	
12	-		GR1D	攪乱	縄文土器	2a	-	-	-	-	
13	158		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-7	92.786	78.883	210.816	
14	167		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-7	90.857	78.187	210.807	
15	154		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-8	96.465	81.080	210.709	
16	153		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-8	95.304	81.502	210.953	
17	294		GR1D	KU	縄文土器	2a	9-7	90.761	79.780	210.792	
18	135		GR1D	FB	縄文土器	2a	9-8	97.916	82.899	210.373	
19	203		GR1D	KU	縄文土器	2b	8-8	89.667	84.104	211.360	
20	171		GR1D	KU	縄文土器	2b	9-7	91.051	79.745	210.723	
21	170		GR1D	KU	縄文土器	2b	9-7	90.962	79.860	210.817	
22	172		GR1D	KU	縄文土器	2b	9-8	90.970	80.075	210.823	
22	122		GR1D	KU	縄文土器	2b	9-8	99.631	84.905	210.784	
22	146		GR1D	FB	縄文土器	2b	10-8	100.038	84.898	210.574	
23	202		GR1D	KU	縄文土器	2b	8-8	89.705	84.927	211.362	
24	50		GR1D	新SC	縄文土器	2b	9-9	92.794	91.422	211.700	
	18		GR1D	KUL	縄文土器		7-16	75.980	164.546	220.888	
	19		GR1D	KUL	縄文土器		7-16	74.277	163.433	220.889	

第5表 縄文時代土器一覧表 (2)

図版番号	遺物番号	接合番号	出土遺構	層位	種別	分類	大グリット	X座標	Y座標	Z座標
	20		GRID	FB	縄文土器		7-16	74.155	163.902	220.735
	21		GRID	FB	縄文土器		7-16	74.265	163.668	220.728
	22		GRID	FB	縄文土器		7-16	74.224	163.292	220.704
	39		GRID	KUU	縄文土器		9-8	90.347	83.655	211.469
	41		GRID	KUL	縄文土器		9-8	90.356	84.390	211.357
	43		GRID	FB	縄文土器		9-8	91.113	84.722	211.032
	108		GRID	新SC	縄文土器		9-8	98.837	87.749	211.130
	131		GRID	FB	縄文土器		9-8	98.899	81.459	210.467
	133		GRID	FB	縄文土器		9-8	98.183	82.703	210.378
	134		GRID	FB	縄文土器		9-8	98.129	82.680	210.383
	142		GRID	FB	縄文土器		9-8	99.694	80.109	210.020
	155		GRID	KU	縄文土器		9-8	90.165	83.470	211.351
	156		GRID	KU	縄文土器		9-8	90.546	82.612	211.085
	157		GRID	KU	縄文土器		9-8	92.376	80.014	211.038
	159		GRID	KU	縄文土器		9-7	91.803	79.543	210.561
	161		GRID	KU	縄文土器		9-7	91.554	79.534	210.657
	162		GRID	KU	縄文土器		9-7	91.548	79.561	210.655
	166		GRID	KU	縄文土器		9-7	91.048	78.186	210.707
	174		GRID	KU	縄文土器		9-8	90.067	80.425	210.766
	175		GRID	KU	縄文土器		9-8	94.954	82.199	210.669
	201		GRID	KU	縄文土器		8-8	88.537	85.079	211.307
	204		GRID	FB	縄文土器		8-8	88.729	85.092	211.127
	211		GRID	FB	縄文土器		9-8	95.178	89.247	211.457
	252		GRID	FB	縄文土器		9-8	98.876	88.767	211.213

第7表 縄文時代石器一覧表 (2)

図版番号	遺物番号	接合番号	調査区遺構	層位	器種	石材	黒曜石産地	長さ(cm)	厚さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標
9	176		GRID	KU	石皿	An		18.8	7.5	15.2	25630	91.344	81.450	211.125
10	285		GRID	KU	石皿	An		26.6	6.1	19.0	43730	94.390	78.784	210.576
	87		GRID	新SC	剥片	Ob	HNJU	1.6	0.5	0.9	08	98.013	84.156	211.264
	107		GRID	新SC	剥片	Ob	HNJU	1.3	0.5	1.5	09	97.620	86.618	211.064
	124		GRID	KU	剥片	FB		3.0	0.7	1.3	33	96.765	84.299	210.961
	189		GRID	KU	剥片	GBA		2.1	1.2	3.0	79	91.004	79.177	210.903
	207		GRID	FB	剥片	Ob	HNJU	1.5	0.9	1.8	14	93.584	87.943	211.403
	209		GRID	FB	剥片	FB		3.3	0.7	2.3	68	91.826	92.596	211.796
	210		GRID	FB	剥片	Ob	HNJU	1.6	0.3	1.6	08	93.950	91.012	211.377
	251		GRID	FB	剥片	FB		3.1	0.7	2.6	68	90.330	86.812	210.930
	280		GRID	FB	剥片	FB		5.2	0.5	2.1	66	97.115	88.908	211.011
	281		GRID	FB	剥片	FB		1.9	0.8	1.3	25	93.684	83.713	210.667

第8表 縄文時代磔一覧表 (1)

遺物番号	出土遺構	層位	種別	状態	石材	接合番号	重さ	大グリット	X座標	Y座標	Z座標
51	GRID	新SC	磔	A2	An		96.0	9-9	92.018	91.757	211.775
52	GRID	新SC	磔	B12	An		44.40	9-9	91.921	91.883	211.748
53	GRID	新SC	磔	B2	An		24.40	9-9	92.193	91.928	211.880
54	GRID	新SC	磔	B2	An		132.0	9-9	92.010	91.325	211.838
55	GRID	新SC	磔	B2	An		120.0	9-9	92.052	91.332	211.809
56	GRID	新SC	磔	B2	An		114.0	9-9	92.350	91.267	211.742
57	GRID	新SC	磔	B2	An		88.0	9-9	92.956	92.632	211.762
58	GRID	新SC	磔	C2	An		88.0	9-9	93.216	91.950	211.670
59	GRID	新SC	磔	B2	An		116.0	9-9	93.010	90.299	211.586
60	GRID	新SC	磔	A2	An		837.0	9-8	93.069	89.523	211.772
61	GRID	新SC	磔	B2	SSH		28.0	9-8	94.020	89.484	211.726
62	GRID	新SC	磔	B11	An		19.0	9-9	95.374	90.326	211.648
63	GRID	新SC	磔	B12	An		64.0	9-9	95.435	90.581	211.761
64	GRID	新SC	磔	B2	An		87.0	9-9	95.522	90.341	211.684
65	GRID	新SC	磔	B11	An		59.0	9-9	95.994	91.194	211.608
66	GRID	新SC	磔	B2	An		135.0	9-9	96.357	90.693	211.828
67	GRID	新SC	磔	B2	An		167.0	9-8	95.850	89.094	211.457
68	GRID	新SC	磔	B12	An		127.0	9-8	95.565	88.619	211.511
69	GRID	新SC	磔	A2	An		276.0	9-8	94.729	88.197	211.398
70	GRID	新SC	磔	B2	An		216.0	9-8	94.290	88.266	211.679
71	GRID	新SC	磔	B2	An		236.0	9-8	94.381	88.184	211.713
73	GRID	新SC	磔	A1	An		311.0	9-8	94.521	87.761	211.568

第6表 縄文時代石器一覧表 (1)

図版番号	遺物番号	接合番号	調査区遺構	層位	器種	石材	黒曜石産地	長さ(cm)	厚さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標
1	88		GRID	新SC	加工痕	Ob		2.5	0.6	1.3	1.6	100.339	86.356	211.125
2	205		GRID	KU	使用痕	GBA		6.4	1.0	8.1	58.0	93.803	85.387	211.226
3	119		GRID	新SC	磨石	An		15.0	4.6	10.7	105.0	97.682	83.591	211.104
4	191		GRID	KU	磨石	An		12.7	5.2	6.7	61.0	92.264	87.454	211.681
5	196		GRID	FB	磨斧	Da		14.7	3.2	11.7	70.0	93.006	91.220	211.572
6	94		GRID	新SC	磨斧	Da		11.5	2.6	11.1	397.0	95.810	89.520	211.563
7	118		GRID	新SC	磨斧	Da		15.8	5.5	10.5	117.0	100.138	84.972	211.118
8	89		GRID	新SC	石皿	An		11.3	5.2	7.7	596.0	95.889	92.301	211.669

第9表 縄文時代礫一覽表(2)

遺物番号	出土遺構	層位	種別	状態	石材	接合番号	重さ	大グリップ	X座標	Y座標	Z座標
74	GRID	新SC	礫	B2	An		32.0	9-8	95.105	86.098	211.355
75	GRID	新SC	礫	B2	An		33.0	9-8	95.235	85.641	211.447
76	GRID	新SC	礫	A2	An		576.0	9-8	86.250	211.365	
77	GRID	新SC	礫	B12	An		82.0	9-8	95.840	86.185	211.306
78	GRID	新SC	礫	B2	An		16.0	9-8	87.671	211.374	
79	GRID	新SC	礫	B2	An		24.0	9-8	97.656	87.675	211.411
80	GRID	新SC	礫	B2	An		13.0	9-8	87.620	87.705	211.431
81	GRID	新SC	礫	B2	An		63.0	9-8	97.751	88.119	211.375
82	GRID	新SC	海浜礫	A2	SSH		25.0	9-8	96.379	83.768	211.062
83	GRID	新SC	礫	B12	An		105.0	9-8	97.467	85.877	211.194
84	GRID	新SC	礫	A2	An		57.0	9-8	97.566	85.416	211.198
85	GRID	新SC	礫	B12	An		24.0	9-8	97.473	85.149	211.189
86	GRID	新SC	礫	B2	An		135.0	9-8	97.970	85.011	211.408
90	GRID	新SC	礫	B2	An		426.0	9-9	95.681	92.272	211.727
91	GRID	新SC	礫	B2	An		802.0	9-9	93.379	92.305	211.799
92	GRID	新SC	礫	B2	An		254.0	9-9	92.663	91.685	211.682
93	GRID	新SC	礫	A1	An		131.0	9-9	94.827	90.458	211.735
95	GRID	新SC	礫	B2	An		607.0	9-8	95.393	88.120	211.514
96	GRID	新SC	礫	B2	An		276.0	9-8	98.990	87.427	211.320
97	GRID	新SC	礫	A2	An		771.0	9-8	97.541	87.234	211.421
98	GRID	新SC	礫	A1	An		571.0	9-8	98.427	86.291	211.403
99	GRID	新SC	礫	B2	An		417.0	9-8	96.531	85.633	211.464
100	GRID	新SC	礫	B11	An		156.0	9-8	95.611	85.590	211.098
101	GRID	新SC	礫	B12	An		817.0	9-8	95.788	84.667	211.012
102	GRID	新SC	礫	B12	An		359.0	9-8	96.869	84.366	211.252
103	GRID	新SC	礫	A2	Ba		531.0	9-8	97.778	84.451	211.247
104	GRID	新SC	礫	B2	An		1853.0	9-8	98.001	84.243	211.072
105	GRID	新SC	礫	B2	An		210.0	9-8	97.621	83.849	210.970
106	GRID	新SC	海浜礫		SS		274.0	9-8	97.875	84.860	210.952
109	GRID	新SC	礫	B2	An		136.0	9-8	97.093	85.769	210.961
110	GRID	新SC	礫	B12	An		30.0	9-8	87.702	81.305	211.122
111	GRID	新SC	礫	A1	An		93.0	9-8	97.146	87.405	211.122
112	GRID	新SC	礫	B12	An		223.0	9-9	95.699	92.201	211.713
113	GRID	新SC	礫	B12	An		572.0	9-8	98.605	88.093	211.263
114	GRID	新SC	礫	B2	An		40.0	10-8	100.120	85.135	211.151
115	GRID	新SC	礫	B2	An		1005.0	9-8	98.167	82.661	210.746
116	GRID	新SC	礫	B12	Ba		872.0	9-8	99.233	83.421	211.029
117	GRID	新SC	礫	B11	An		279.0	10-8	100.149	83.906	211.012
120	GRID	KU	礫	B12	An		486.0	9-8	99.862	85.589	210.922
121	GRID	KU	礫	B12	An		69.0	9-8	99.589	85.371	210.811
123	GRID	KU	礫	B2	An		18.0	9-8	96.451	88.111	211.209

第10表 縄文時代礫一覽表(3)

遺物番号	出土遺構	層位	種別	状態	石材	接合番号	重さ	大グリップ	X座標	Y座標	Z座標
125	GRID	KU	礫	A1	An		481.0	10-8	100.189	82.441	210.807
126	GRID	FB	礫	B2	An		2767.0	10-8	100.099	84.774	210.627
127	GRID	FB	礫	A2	An		799.0	9-8	99.548	84.781	210.517
128	GRID	FB	礫	B12	An		580.0	9-8	99.689	83.755	210.427
129	GRID	FB	礫	B2	An		785.0	9-8	99.499	83.670	210.405
136	GRID	FB	礫	C2	An		166.0	10-8	100.169	82.317	210.372
137	GRID	FB	海浜礫		SSH		5.3	10-8	101.610	82.269	210.436
138	GRID	FB	海浜礫		SSH		17.7	10-8	101.998	80.506	210.145
144	GRID	FB	海浜礫		FH		23.5	10-8	100.682	83.197	210.202
145	GRID	FB	海浜礫	A1	An		501.0	10-8	100.063	84.884	210.367
147	GRID	50	海浜礫	A2	SS		46.0	9-8	97.980	82.127	209.960
148	GRID	KU	礫	B2	An		885.0	9-8	95.367	81.928	210.808
149	GRID	KU	礫	B2	An		801.0	9-8	95.236	81.374	210.955
150	GRID	KU	礫	B2	An		773.0	9-8	96.895	81.079	210.632
151	GRID	KU	礫	B2	An		155.0	9-7	95.032	79.962	210.864
152	GRID	KU	礫	B2	An		519.0	9-8	95.721	82.082	210.911
177	GRID	KU	礫	B2	An		665.0	8-8	89.866	83.135	211.004
178	GRID	KU	礫	B11	An		588.0	9-8	90.032	82.942	211.087
179	GRID	KU	礫	B11	An		195.0	9-8	91.997	83.213	211.113
180	GRID	KU	礫	B12	An		336.0	9-8	92.110	80.426	210.894
181	GRID	KU	海浜礫	A2	Sl		10.0	9-7	92.734	79.906	210.761
182	GRID	KU	礫	B11	An		9.0	9-7	93.112	78.889	210.586
183	GRID	KU	礫	A1	An		88.0	9-7	92.943	78.888	210.730
184	GRID	KU	礫	A2	An		386.0	9-8	93.065	81.317	210.954
185	GRID	FB	礫	B12	An		2.0	9-8	93.260	81.453	210.495
186	GRID	KU	海浜礫	A2	An		20.0	9-8	94.740	80.434	210.617
187	GRID	KU	礫	B12	An		205.0	9-8	96.852	82.391	210.668
192	GRID	FB	礫	B2	An		2922.0	9-8	90.641	87.045	211.350
193	GRID	FB	礫	B2	An		3017.0	9-9	90.634	90.276	211.660
194	GRID	FB	礫	A2	An		758.0	9-8	92.697	88.486	211.361
195	GRID	FB	礫	B2	An		1051.0	9-9	93.599	90.064	211.406
197	GRID	FB	礫	A2	An		396.0	9-9	93.905	92.063	211.501
198	GRID	FB	礫	B2	An		4123.0	9-9	94.414	92.856	211.463
199	GRID	FB	礫	A2	An		1379.0	9-8	94.887	85.353	211.024
200	GRID	FB	礫	B2	An		321.0	9-8	93.833	83.584	211.008
212	GRID	FB	礫	B2	An		78.0	8-8	89.596	83.353	210.990
213	GRID	FB	礫	A2	An		107.0	9-8	90.327	87.800	211.245
214	GRID	FB	海浜礫		SSH		12.0	9-8	91.098	88.079	211.290
215	GRID	FB	礫	B2	An		14.0	9-8	91.283	88.093	211.399
216	GRID	FB	礫	A1	An		193.0	9-9	90.393	90.354	211.735
218	GRID	FB	礫	B12	An		116.0	9-9	94.452	92.656	211.518

第 11 表 縄文時代礫一覽表 (4)

遺物番号	出土遺構	層位	種別	状態	石材	接合番号	重さ	大グリップ	X座標	Y座標	Z座標
219	GRID	FB	礫	B2	An		26.0	9.9	93.975	92.123	211.473
221	GRID	FB	礫	A2	An		335.0	9.9	94.194	91.816	211.457
222	GRID	FB	礫	B2	An		126.0	9.9	93.301	91.160	211.441
223	GRID	FB	礫	B11	An		133.0	9.9	93.119	91.102	211.548
224	GRID	FB	礫	A1	An		128.0	9.9	93.039	91.137	211.552
225	GRID	FB	礫	A2	An		159.0	9.9	94.937	90.606	211.327
226	GRID	FB	海浜礫		SS		292.0	9.9	94.760	90.195	211.257
227	GRID	FB	礫	B12	An		148.0	9.8	94.765	89.824	211.369
228	GRID	FB	礫	B12	An		24.0	9.8	95.093	89.570	211.282
229	GRID	FB	礫	B12	An		63.0	9.8	95.273	88.809	211.217
230	GRID	FB	礫	B12	An		102.0	9.8	95.201	88.605	211.216
231	GRID	FB	礫	B2	An		7.0	9.8	95.217	88.545	211.194
232	GRID	FB	礫	A1	An		142.0	9.8	94.966	88.473	211.237
233	GRID	FB	礫	B11	An		23.0	9.8	94.402	88.756	211.334
234	GRID	FB	礫	A2	Ba		318.0	9.8	94.910	87.077	211.026
235	GRID	FB	礫	B11	An		83.0	9.8	94.489	87.049	211.198
236	GRID	FB	礫	B12	An		48.0	9.8	94.272	87.048	211.223
237	GRID	FB	礫	B2	An		150.0	9.8	93.649	84.411	211.038
238	GRID	FB	礫	A1	An		147.0	9.8	95.268	85.399	211.016
239	GRID	FB	礫	A2	An		317.0	9.8	96.174	84.258	210.885
240	GRID	FB	礫	B2	An		13.0	9.8	96.452	84.874	210.862
241	GRID	FB	礫	B2	An		17.0	9.8	98.595	85.071	210.877
242	GRID	FB	礫	B12	An		35.0	9.8	97.846	87.726	211.067
243	GRID	FB	礫	A1	An		362.0	9.8	96.578	86.702	210.974
244	GRID	FB	礫	B2	An		366.0	9.8	93.074	89.401	211.493
245	GRID	FB	礫	B11	An		51.0	9.8	92.340	89.149	211.442
246	GRID	FB	礫	B11	An		190.0	9.8	92.258	89.382	211.427
247	GRID	FB	礫	A2	An		462.0	9.8	92.603	89.740	211.482
248	GRID	FB	礫	B2	An		140.0	9.8	92.133	89.725	211.460
249	GRID	FB	礫	A2	An		223.0	9.8	92.814	89.894	211.512
250	GRID	FB	礫	B2	An		16.0	9.8	96.667	87.661	211.052
253	GRID	FB	礫	B2	An		1383.0	9.9	94.794	90.465	211.168
254	GRID	FB	礫	B2	An		234.0	9.8	94.463	88.462	211.302
255	GRID	FB	礫	B2	An		580.0	9.8	96.663	85.307	210.835
256	GRID	FB	礫	B11	An		187.0	9.8	92.707	84.402	211.002
257	GRID	FB	礫	B2	An		371.0	9.8	93.064	85.940	211.161
258	GRID	FB	礫	B2	An		747.0	9.8	90.181	83.305	211.000
259	GRID	FB	礫	A1	An		52.0	9.8	95.898	88.031	211.151
260	GRID	FB	礫	A1	An		263.0	9.8	95.948	88.033	211.104
261	GRID	FB	礫	B12	An		169.0	9.8	96.059	87.969	211.100
262	GRID	FB	礫	A2	An		177.0	9.8	96.348	88.150	211.092

第 12 表 縄文時代礫一覽表 (5)

遺物番号	出土遺構	層位	種別	状態	石材	接合番号	重さ	大グリップ	X座標	Y座標	Z座標
263	GRID	FB	礫	A2	An		349.0	9.8	96.976	86.760	211.006
264	GRID	FB	礫	B2	An		113.0	9.8	95.244	89.642	211.249
265	GRID	FB	礫	B11	An		36.0	9.9	96.541	90.406	211.433
266	GRID	FB	礫	B2	An		74.0	9.9	95.941	90.808	211.478
267	GRID	FB	礫	B2	An		48.0	9.9	96.427	90.963	211.408
268	GRID	FB	礫	B11	An		237.0	9.9	96.713	91.536	211.469
269	GRID	FB	礫	B12	An		238.0	9.9	95.692	91.265	211.392
270	GRID	FB	礫	A2	An		322.0	9.9	95.216	92.723	211.535
271	GRID	FB	礫	A2	An		224.0	9.9	95.755	92.775	211.429
272	GRID	FB	礫	B2	An		30.0	9.8	95.445	88.798	211.110
273	GRID	FB	礫	B2	An		23.0	9.8	95.491	88.956	211.130
274	GRID	FB	礫	B12	An		110.0	9.8	95.763	88.913	211.024
275	GRID	FB	礫	C2	An		124.0	9.8	95.820	88.381	211.076
276	GRID	FB	礫	A2	An		115.0	9.8	95.662	87.457	210.897
277	GRID	FB	礫	B11	An		108.0	9.8	96.068	86.947	210.854
278	GRID	FB	礫	A1	Ba		142.0	9.8	96.011	86.414	210.803
279	GRID	FB	海浜礫	A2	SSH		10.0	9.9	96.482	90.125	211.229
282	GRID	FB	礫	B11	An		293.0	9.8	95.480	88.966	211.092
283	GRID	FB	礫	A2	An		120.0	9.9	95.427	90.502	211.282
284	GRID	FB	礫	B2	An		39.0	9.9	95.163	90.808	211.244
286	GRID	KU	礫	B2	An		4063.0	9.8	96.617	85.979	211.011
287	GRID	KU	礫	A2	An		2258.0	9.8	97.003	86.856	211.039
288	GRID	KU	礫	A2	An		4663.0	9.8	98.699	87.034	210.938
289	GRID	KU	礫	C2	An		80.0	9.9	94.889	90.542	211.325
290	GRID	KU	礫	A2	An		72.0	9.9	95.046	90.658	211.262
291	GRID	KU	礫	B2	An		30.0	9.9	95.782	91.311	211.344
292	GRID	KU	礫	A2	An		355.0	9.9	92.490	92.721	211.833
293	GRID	FB	礫	B2	An		121.0	9.9	94.046	92.117	211.349
295	GRID	KU	礫					9.7	90.741	79.737	210.750
296	GRID	FB	礫	B12	An		79.0	9.9	95.122	90.730	211.213
297	GRID	FB	礫	B11	An		475.0	9.9	94.948	90.593	211.236
298	GRID	FB	礫	B11	An		42.0	9.8	95.195	89.315	211.297
299	GRID	FB	礫	B2	An		33.0	9.8	93.726	83.802	210.637
300	GRID	FB	礫	B2	An		38.0	9.8	94.298	87.067	211.195

# 写真図版





愛鷹山麓（南より）



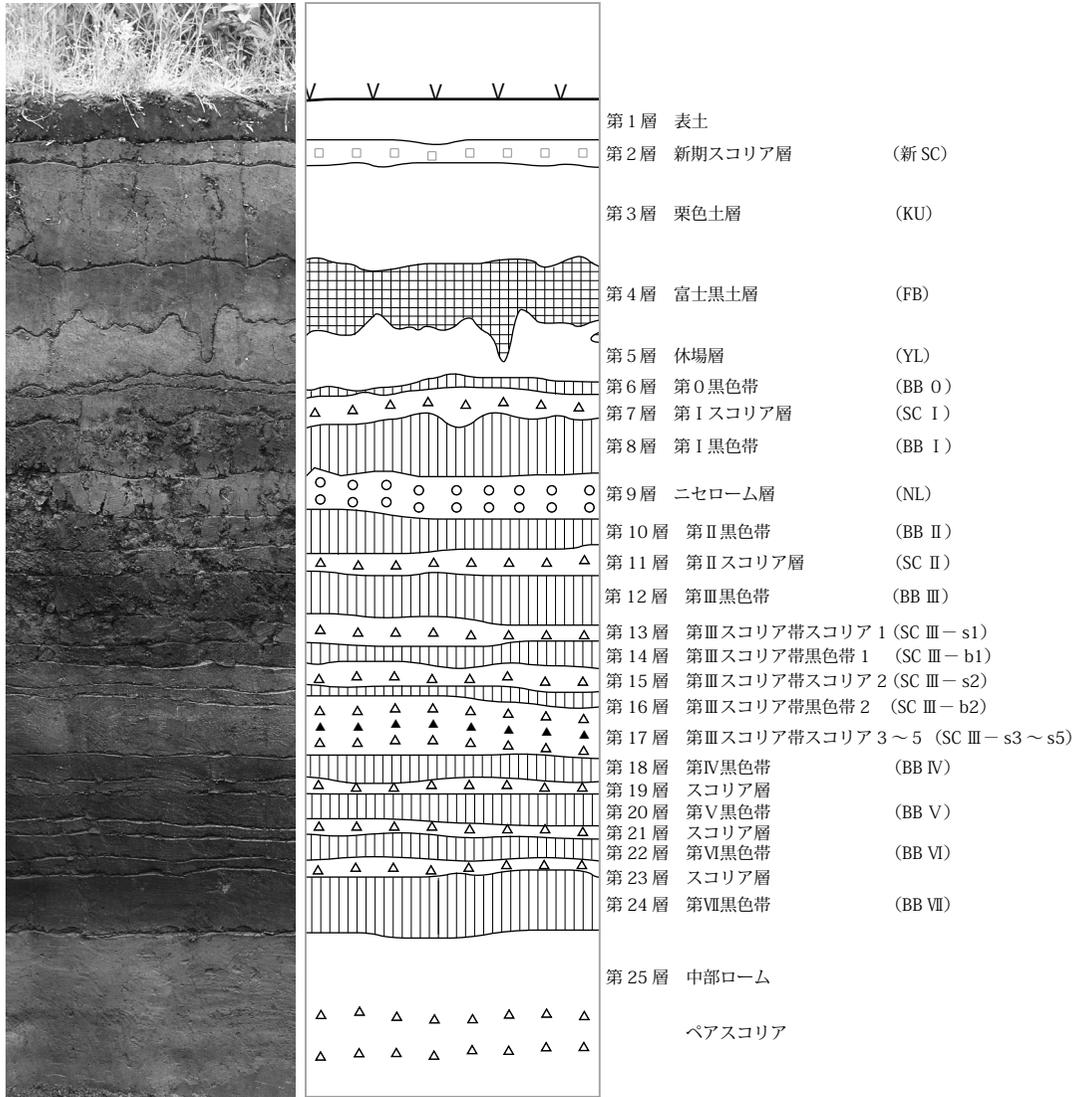
愛鷹山南東麓（南より）



拓南遺跡（西より）



拓南遺跡（東より）



愛鷹ローム標準土層（ニツ洞遺跡）

PL. 4



休場層第1号・第2号ブロック（東より）



休場層第1号ブロック（南より）



新期 SC 層～FB 層遺構検出状況（東より）



SX1 検出状況（南より）

PL. 6



SX1 半截状況（南より）



SX1 完掘状況（南より）



SX2 完掘状況（西より）



SX3 検出状況（東より）



SX3 半截状況（東より）



SX3 完掘状況（東より）



SX1・SX2・SX3 完掘状況（南より）



新期 SC 層～FB 層遺物出土状況（東より）



新期 SC 層～FB 層遺物出土状況（北より）



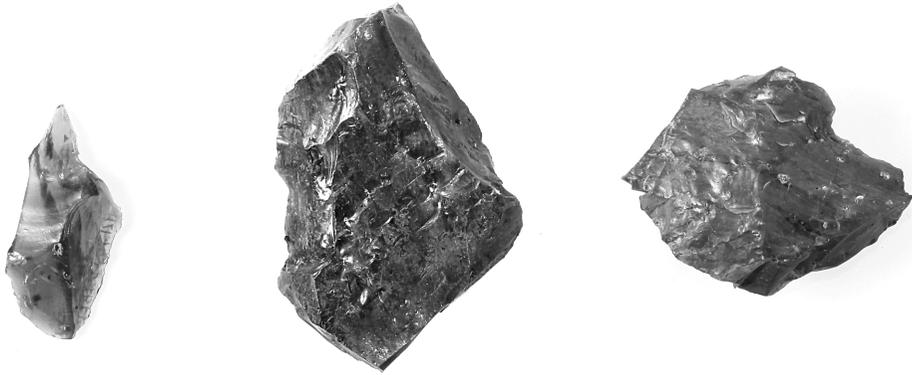
新期 SC 層～FB 層遺物出土状況（南より）



新期 SC 層～ FB 層遺物出土状況（東より）



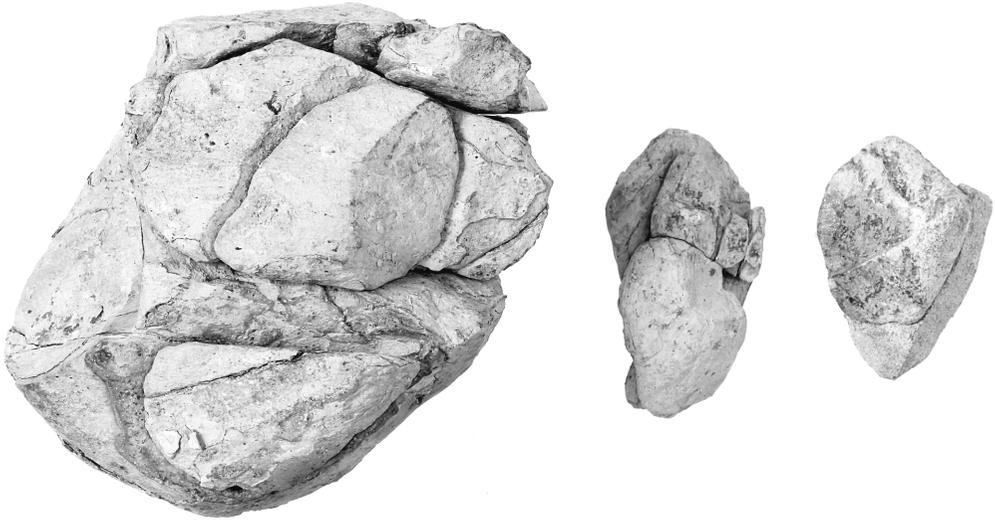
新期 SC 層～ FB 層遺物出土状況（東より）



休場層出土石器（ナイフ・RF・石核）



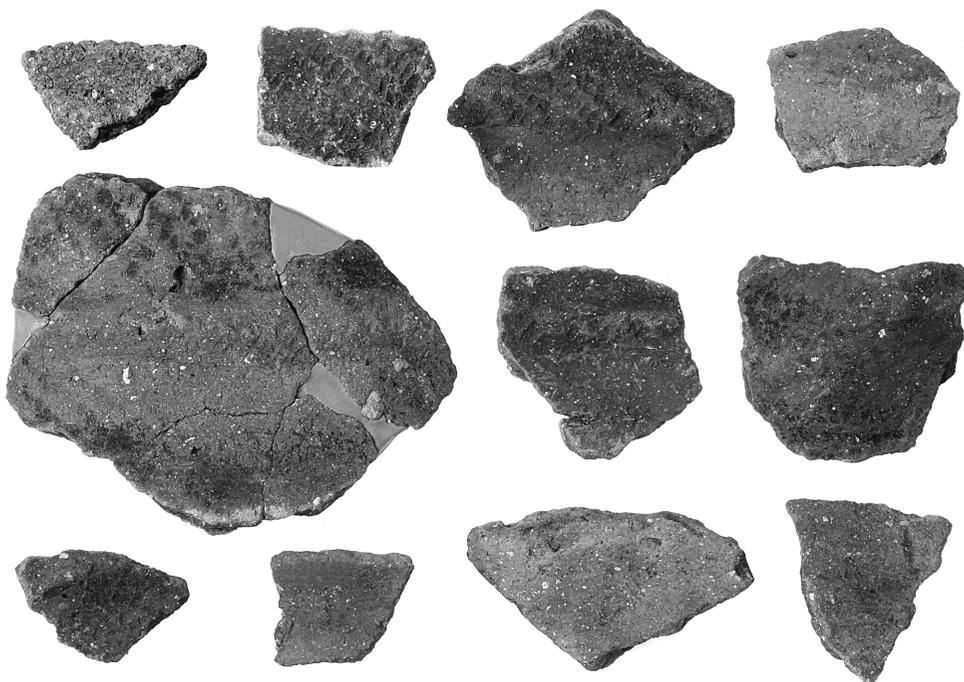
休場層出土石器（石核）



休場層出土石器 (接合資料)



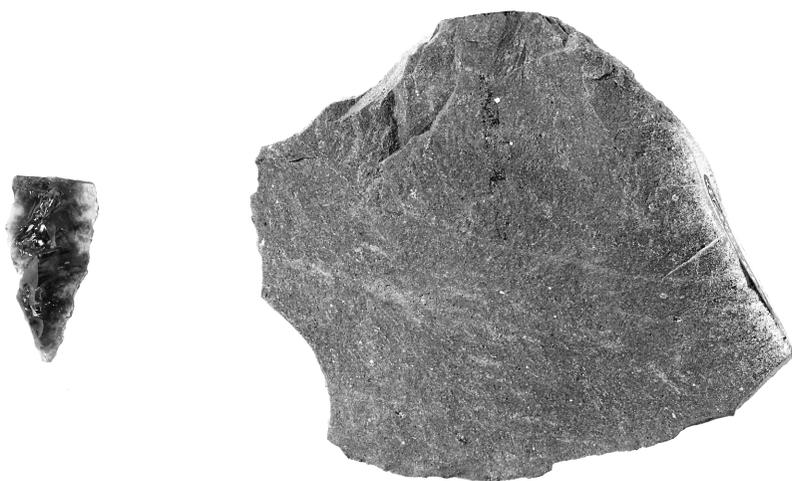
第1群 a類土器 (上段~下段左)・b類土器 (下段右)



第2群a類土器（上段～下段左）・b類土器（下段右）



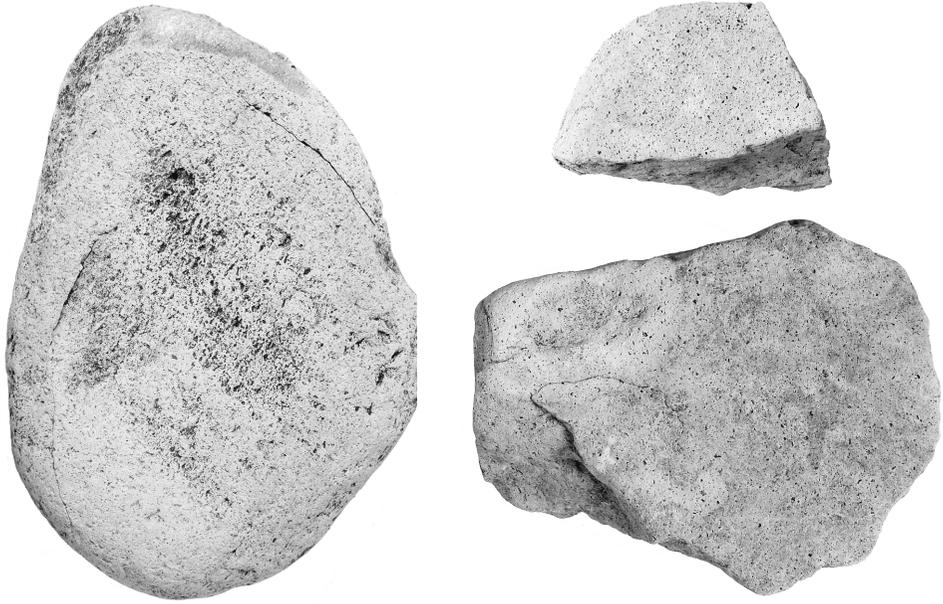
第2群b類土器



縄文時代遺構外出土石器 (RF・UF)



縄文時代遺構外出土石器 (磨石・礫斧)



繩文時代遺構外出土石器（石皿）

## 報告書抄録

ふりがな	たくなんいせきはつかつちようさほうこくしょ							
書名	拓南遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	沼津市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第101集							
編著者名	前嶋秀張							
編集機関	沼津市教育委員会							
所在地	〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16番1号 TEL055-931-2500(代)							
発行年月日	西暦2011年3月10日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系				
たくなんいせき 拓南遺跡	ぬまつしあしたかおのうえ 沼津市足高尾上	22203	140	35° 09' 39"	138° 51' 22"	20090420	280㎡	駐車場整備
				日本測地系		～		
				35° 09' 27"	138° 51' 33"	20090731		
所収遺跡名	種別	主な年代		主な遺構		主な遺物		特記事項
拓南遺跡	集落跡	旧石器時代 (休場層)		石器ブロック2		ナイフ形石器、加工痕のある 剥片、石核、剥片、碎片、礫		
	散布地	縄文時代		小穴3		早期土器片(樋沢式、茅山上 層式)、加工痕のある剥片、 礫斧、磨石、石皿、剥片、碎片、 礫		
要約	<p>旧石器時代</p> <p>休場層は、2箇所のブロックから検出された33点と単独出土の3点、合計36点の石器群によって構成される小規模な文化層である。石器組成はナイフ形石器1点、加工痕のある剥片1点、石核5点、剥片・碎片29点である。石材組成は、第一石材が富士川系ホルンフェルスであり、出土点数・重量ともに比率が高い。石器石材は、ナイフ形石器1点が黒曜石である。石核と剥片の石材は富士川系ホルンフェルスが占める割合が高い。剥片剥離技術は、石刃技法を技術基盤として石刃・縦長剥片を作出している。本文化層は、ナイフ形石器石器群の最も新しい段階に位置づけられると思われる。</p> <p>縄文時代</p> <p>縄文時代の遺構としては、縄文時代早期に構築されたと推定される性格不明の遺構3基を検出した。遺物は富士黒土層から栗色土層にかけて縄文時代の土器55点、石器20点、礫179点が出土した。土器は早期前葉の押型文と早期後葉の茅山上層式と考えられる。石器は食料加工具と考えられる磨石2点・石皿3点などが出土し、縄文時代早期に属するものと思われる。これらの遺構と遺物から、本調査地点は縄文時代早期に食料加工具を用いる場として利用されていたと考えられる。</p>							

沼津市文化財調査報告書 第101集

**拓南遺跡発掘調査報告書**

平成23年3月10日 印刷

平成23年3月10日 発行

編集／沼津市教育委員会

発行／沼津市教育委員会

沼津市御幸町16番1号

TEL (055) 931-2500(代)

印刷／みどり美術印刷株式会社